



道

みちもり

守

通信

MICHIMORI
TSUSHIN

発足20周年記念号



知れない夕日

ひとが見たかも

せんねんまえに歩いてた

この道を



古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄りも、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなどは整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えている。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。
さあ、新しい道に一步踏み出そう。



花咲く竹田(みちづくし in 竹田2023)大会宣言を読み上げる菅生小学校の生徒たち(大分県竹田市)

CONTENTS

- 01 巻頭言
道守20年を振り返って
「道守は九州の地域活動のモデル」
道守九州会議代表世話人・塚原 健一
- 02 道守20年座談会
この輪をどう広げてゆくか
- 10 手をつなぐ 連携する人々
学び楽しむ拠点に 道の駅から
心安らぐ町と道に感謝 高校生から
学生たちが成長する舞台 大学から
誇りと愛着を後世につなぐ 協力団体から
- 12 道守活動20年 種を育てた人々
- 14 道守活動20年 支えてきた人たち
- 21 私たちの道守活動
20年の軌跡と未来
- 28 支える 道守の応援者たち
歴代局長
国交省各国道事務所担当者
地方自治体
企業市民
- 34 思い出のみちづくし
第一回からポスターで巡る
- 40 道守へのエール

道守

みちもり



道守九州会議代表世話人
塚原 健一

20年を振り返って

しかし各地の道守活動は、地に足のついた人と地域の絆を大切に活動した活動を継続していることが、道守通信の各地域の報告から伝わってきました。

大都市部はともかく、多くの地方都市で人口減少とそれに伴う経済活動の低下、公共サービス水準の低下に直面しており、九州では人口5万人以下の自治体の殆どがこの20年で2割程度もしくはそれ

は、これからも地域活動の有効なモデルになると思います。「道守九州会議代表世話人」というのは、この貴重な九州の道守活動を支えてゆくお世話係の責任者ということになりますので、これまでの20年の活動を参考にしつつ、これからも関係機関とも連携をとりながら努力してゆく責任を、道守通信全45号を読み返し再認識したところです。

道守は九州の地域活動のモデル

道守活動がスタートして20年になります。私なりに道守活動の20年を振り返ってみようと、まずは道守通信を創刊号(Vol.1)から最新号(Vol.45)までを読み返しました。

改めて驚いたのは活動の「熱」がいろいろと形は変えつつありますが20年間熱いままだということ。この20年で社会は急激な新自由主義経済への転換、政治の混乱、日本が初めて経験する長期的な人口減少、頻発する大災害、と目まぐるしい変貌を経験しました。

以上の人口減少を経験しています。そのような状況の中でも多くの地域から活発な道守活動が報告されています。特段の行政からの支援もないなかで、各自が工夫して自律的に活発な活動を展開されていることに驚いております。

人口減少と共存してゆかざるを得ないこれからの九州で、各自が工夫して自律的に活発な活動を展開している道守活動

■プロフィール

つかはら けんいち 1962年生まれ、幼少期より国道事務所勤務の父親に連れられ大分、鹿児島、福岡、佐賀の国道沿いで育つ。九州大学土木工学科卒業後、日本とアジア各国の社会資本整備に従事し、2011年から九州大学大学院教授。

座談会

道守 20年座談会

— この輪をどう広げてゆくか —

〈座談会出席者〉

- 道守九州会議代表世話人 塚原健一氏
- 副代表世話人 玉川孝道氏
- 道守ふくおか会議代表世話人 山田三代子氏
- 道守佐賀会議代表世話人 北里幸良氏
- 道守長崎会議代表世話人 三原ユキ江氏
- 道守くまもと会議世話人 牧圭子氏
- 道守大分会議事務局長 阿南誠志氏
- 道守みやざき会議代表世話人 木ノ下結理氏
- 道守かごしま会議代表世話人 根岸裕孝氏
- 田島直美氏

塚原代表 20年間の道守活動を経て、「これからのチャレンジ 連携を拡げ・繋ぐ」をテーマに座談会を進めてゆきます。現状の道守活動を踏まえ、連携を拡げ、繋げてゆかために、特に「若い世代をどのように巻き込んでゆくか、声をかけてゆくか」や「学校や地域の団体などとのように連携の輪を広げてゆくか」などについてお話しただきたいと思えます。



道守九州会議
代表世話人
塚原 健一氏

道守ふくおか会議(山田氏) ふくおか会議は、現在では117団体。個人が47名です。全体の総人数が17121名です。その中には北九州市道路サポーター会の9000名が入っています。福岡の県南地区で平成16年、最初に



市長も自ら参加

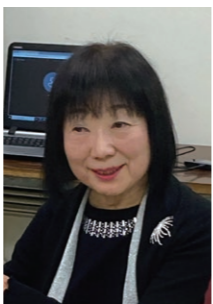
道守を始めたのが柳川でした。当初から行政が関わられて市の団体をネットワークとして取りまとめ、市役所に事務局を置き、全面的にバックアップをしてもらいました。大川の際は柳川市の都市計画課の方が大川市役所に行行してくださり、大川で発足し、大牟田、うきは、久留米そしてみやまと発足していききました。行政を外せないと痛感しています。20年経って、市の行事として定着、良かったなと思っています。また、福岡国道と有明海沿岸国道の2事務所にも支えられながら、イベント

道守ふくおか会議(北里氏) ふくおか会議では、北九州市道路サポーターは



トロッコ列車ときれいに咲いたキク

行政と共に 山田氏



道守ふくおか会議
代表世話人
山田 三代子氏

が打ち合わせて6月から除草を開始し、綺麗になりました。仲間は高齢者が多いのですが、あと10年は頑張ります。道守佐賀会議(三原氏) 佐賀会議は、28団体で個人が4人、会員数1998名です。最近トラック協会の女性部や公民館単位の街づくり協議会が参加してくれました。今後は、学生さんたちに呼びかけをしたいと思っています。



「これからのチャレンジ」をテーマに意見交換をしました

桜マラソンの時は佐賀市がすぐく力を入れておられ、学校も参加され、やっぱり行政の力を感じています。また、学生さんたちも出てきてくれるので、もっと呼びかけをしたいなあと思っています。事故があった時の対応を道守がどうするかと考えると、一歩踏み出せませんでした。

ひな祭り清掃は、当初、100人も満たなくて、ラジオやテレビ局、新聞社を回りましたが、なかなか来てくれませんでした。今は、学生さんや親子連れで参加してください。福を拾いに来た」とかで企業の方も親子で参加してくるようになり、嬉しく思っています。

道守長崎会議(牧氏) 道守長崎会議は、参加団体数が約150団体、企業や幼稚園、小学校から大学まで、それから商店街の皆さんや旅館の女将さんたちとか、たくさん幅広い団体が入っています。10年前からずっと2000人となつていますが、多分、2500人以上はいると思っています。割と若者の参加が多く、20代から90代までの幅広い年齢層で活動しています。若者世代の参加ということでは、サッカーの試合前に



花植え活動(大崎中学校)

清掃活動をした後にみんなで観戦するとか、海岸清掃の時は活動後にバーベキューをすとかイベントと抱き合わせでやっています。

最近始まった連携の一つに自衛隊が参加してくれるようになりました。佐世保では、灯台マルシェが開催された時に、米軍基地の方や自衛隊の方々が積極的



道守みやざき会議
代表世話人
根岸 裕孝氏

学校と組もう 根岸氏

に参加してください。ずいぶん幅が広がりました。

また、子どもたちが部活で走っている時に「終わったら、お茶でも飲みにおいでよ」と声をかけ、みんなが喜んでやってきて、お茶やおにぎりを食べていきます。日頃からつながりを持ってると、清掃活動にも積極的に参加してくれます。やっぱり何か楽しいことや美味しいこと、食べ物とかがあると親しさが増します。

道守くまもと会議(阿南氏) これから会員の把握をしようと考えています。どこでもそうですけど、熊本ももちろん例に漏れず、どこを走っても綺麗な街づくりとか、花壇を作ったりしている所はいっぱいあります。この人たちが道守さんだなと思います。

道守大分会議(木ノ下氏)

道守大分会議の参加団体は約160団体、7500名ほどが名簿上に計上されています。大分では、結成当初の20年前、マイツリーを始め、その時に地域や自治体、自治会・老人会、ファミリーや団体の方たちが加入されました。その方たちが「団体と見なされており、年齢構成に関しては20代から90代までいらっ

しいのかなと思っています。今、あえて道守に「加入してください」と、促してないんです。活動に参加することを楽しんでくださり、後々それが道守だった！と気づいてくれる...でも

道守みやざき会議(根岸氏)

人ぐらいです。年齢構成は把握していませんが、如何に若い人に参加してもらおうかが大きな課題です。我々が議論したのは、学校と組もうという



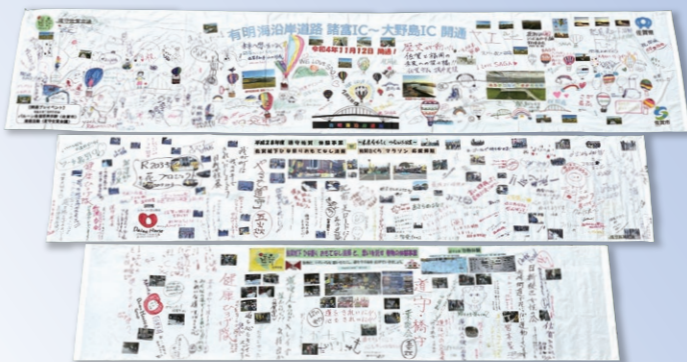
植栽前の説明に耳を傾ける高校生と道守さん(道の駅くしま)

ことで去年から取組を始めました。具体的には、福島高校と一緒に道の駅で植栽や清掃活動をしました。

道守かごしま会議(田島氏) 今年度、88団体で6449人です。

神村学園の他に小学校も入っており、高齢者がいるのも現状です。学校の加入を推進するために、美化活動している学校に道守通信や道守の案内を持参し、「いい活動していらっやいますので、自分たちの活動を大事にしなから緩やかな繋がりをもった道守というネットワークがあるのか、どうか道守に入りませんか」と、出向いて、入っていただきました。また、道路清掃や花壇を作っていると

〈清掃活動後に感想を書いてもらう道守絵巻〉



神村学園高校の生徒会役員による清掃活動

ろを見つけて、市役所に問い合わせ、集会の場にご案内いただいて参加してやしてまいりました。最初16団体ぐらいたったが、着実に増えてまいりました。しかしながら、高齢化で動いてないところやコミュニティでは、次の会長さんに引き継がれていなかったりで、事務局で郵便物を送っても戻ってきたりしていません。

道守ふくおか会議(山田氏) 連携としては、福岡市周辺の道守団体が福岡国際マラソンの前に清掃と花植え活動を一齐に実施し、毎年テレビ局で取り上げられて少しずつ認知度が高まっています。県南では意見交換会や合同で勉強会・見学会を実施しています。会議だけで

なく共に活動することで一体感ができています。

広報では、発足当初は、マスコミによく取り上げられていましたが、同じことを20年もやっていると難しいんです。毎年、市と合同で大々的にクリーン・アップ大作戦を実施する時は、取り上げてくださいます。

道守ふくおか会議(北里氏) 私たち、門司港レトロ花の会は、活動を始めて23年目になります。テレビにこの前2回出ました。そうしたら反響が凄くて、多くの人が、この活動は北九州市役所ではなく、実は私たちが行っていることと認識してくれたことです。

また、四季折々の花の季節になると毎日新聞社と読売新聞社から取材依頼



みちづくしの後、福岡県南地区のみんなで見学

が来ます。門司港レトロ地区が花いっぱいになっている写真が紙面に載るととてもうれしいです。

道守佐賀会議(三原氏) 佐賀会議では、最初の頃から道守絵巻を作っています。道守絵巻は、道守活動後に長い布を置いて、デザインとか何もなくて、マジックで好きなことを書いてもらうようにしています。この前は有明海沿岸道路のオープニング前のボランティア清掃活動で、参加者に思いを書いていただきました。それを有明海沿岸国道事務所がパネル化してくださりお披露目することができて本当によかったです。布はあんまり場所をとらないし破れませんが、書くときに場所をとるから準備が大変です。清掃活動後に、参加してよかったとか綺麗になったとか親子で来て書いてもらい、その様子の写真を撮る了解を得て実施しています。何かみんなで一緒にやるのが、一体感

ができていいのかなと思って、続けています。

もう一つ、佐賀の道守会議では、佐賀城下ひなまつりおもてなし清掃、さくらマラソン清掃活動と大きなイベントは二つありますが、SNSなどに載せて広報活動をしています。また、佐賀の道守団体の活動紹介も、ホームページに載せ



市民と一緒に清掃活動をする佐賀市長

てもらっています。事務局だけに頼らずに役割分担をして活動を進めています。今年度は佐賀市の坂井市長が佐賀城下ひなまつりおもてなし清掃活動に最後まで参加され、皆さん嬉しい気持ちで活動をしていました。子連れの方や企業の方、おじいちゃんとかおばあちゃんたちも参加されており、「参加して良かったね」という言葉を聞くのが一番です。

また、道の駅の日が創設されてからは、道の駅とも連携して、清掃活動をしました。広報としてはやっぱりSNSですね。それに佐賀市報とか「さがとこ」です。「さがとこ」は県の健康アプリで、ポイントを獲得すると、いろいろな特典があるようです。私たちの活動も登録しています。

道守長崎会議(牧氏) 長年地道に活動していると、いろいろな人と多方面の繋がりが出来て、海岸清掃をするようになりまし。海のゴミの7割、8割は陸からのゴミだそう、環境を守ることは道がベースだった私たちが、そこから波及して海や山に活動が広がっています。

道守絵巻で一体感 三原氏

また、新大工町の地下道を商店街が掃

除されているんですが、掃除道具の保管場所の鍵が国交省の大村出張所にあり、「自分たちが活動する時は大村まで鍵を借りに行き、終わったら返しにいかなければならぬ」とも面倒」という話がありました。大村出張所に掛け合っ



魚を手づかみするイベントも開催

海や山に広げる 牧氏



道守長崎会議 代表世話人 牧 圭子氏

ます。ミニみちづくしですね。

広報はホームページです。ホームページの管理は道守会議の世話人です。退職後に時間ができたからと勉強して作られています。頭の体操って言いながら、試行錯誤しながらされており、本当にホームページが充実して助かっています。2ヶ月に1回各地区の世話人が集まって会議をするんですが、その結果をすぐホームページにアップして、みんなで見られるようになっていきます。活動状況や写真を送るとすぐアップできてます。ホームページを見ると、みんなの活動が分かるのでとても励みになっていきます。



みちづくしにて、花植え体験後に写真撮影



「3つの輪」通信写真



SNSの活用

また、国交省が作ってくれる「長崎三つの輪通信」は、写真をメインに見やすく編集していますのでみんなの笑顔を見ることができ、お互いに刺激し合いながらの通信になっています。あとはフェイスブックです。

連携として、風景街道、道守と道の駅長崎版連携を少しずつ始めてます。道の駅の日のイベントに合わせてみんなで参加してマグロの解体ショーなど楽しんでい

ます。道守長崎会議は人材が豊富です。道守大分会議(木ノ下氏) 若者世代の参加拡大のために具体的な事例が二つほどあります。

一つは、4月22日の道の駅の日一斉清掃や別大毎日マラソンの事前清掃活動などの参加しやすい活動をSNSで参加予告をやってみました。去年は大学生が参加してくれました。「SNSで見てくださいました」と、また来年も来てねって言った「行きます」と。

二つ目は、スポーツ系とコラボです。長崎がサッカーチームと一緒にするっていうのを聞いて、大分でもやってみたくてと大分トリニータさんに「試合会場までのウォーキング+ゴミ拾い」企画を打診。情報をホームページに載せてもらったら、「道守ってなんだ、なんだ」みたいになって

コラボで話題づくり 木ノ下氏



道守大分会議 事務局長 木ノ下 結理氏

アクセスがすごいことになりました。選手が参加する、と情報公開されると、山口とか広島とかいろいろるところからメールが届き、びっくりしました。

連携に関しては、三つの輪で、道の駅と風景街道の皆さんと一緒に活動する

に出すだけじゃなくて、いいねとか、共感のボタンが何個押されるかが重要で、出してほしいっていうのもんじゃないんだという話だったんです。道守は、共感をどう増やしていくかということから考えていかなきゃいけないって、何個「いいね」をもらえるのか、そういう共感っていうコミュニケーションがあつて、広がっていくんだつたら、活動を共感してくれるための仕掛けというのが重要だと思えます。

道守かごしま会議(田島氏) 私は木ノ下さんからピブスの紹介をいただき、鹿児島相互信用金庫に応募して、補助していただきました。その後は鹿児島銀行がピブスのほり旗を作ってくださいました。それと、鹿児島信用銀行の三つの金融機関の方に入ってくださいました。トヨタも入っていただきました。

連携については、商工会とか、地域の美化活動をしている団体と連携しております。私の住んでる薩摩川内市も花いっぱいまちづくり推進協議会があります。それには学校とか行政、国交省の方も入っています。私の地域には川内川があり、河川事務所も入っています、この花いっぱい運動の条例を作り、その中で花に関する事は連携ができています。

また、川内駅前の道路は県の振興局が担当しており、歩道との間に緑地帯があるので、そこにプランターを置く許可をいただいて活動しています。そして、水やりは花を植えた時に、周辺の店に水やりをお願いをし、市役所からも水

花の連携を進める 田島氏



道守かごしま会議 代表世話人 田島 直美氏

機会を持っています。

また、大分銀行は、本店から支店まで行員さんが加入していて、名簿上の道守会員は、大分の会員数7500人の内、1000人を占めています。活動のためのピブスもご提供いただいています。すし地元の企業様がこうやって入っているだけなのは、大変心強いです。鹿児島でも大分銀行の例を見習って、ピブスの提供を鹿児島銀行に掛け合わせたと聞いています。やまなみハイウェイの活動の時も、肥後銀行や大分銀行からグッズをもらったりしてご協力いただいています。

広報に関してはSNSをうまく活用しています。事務所にも発信を手伝ってもらっています。イベントをするときは、報道機関にプレスリリースをします。

道守みやざき会議(根岸氏) 連携していく相手として、道の駅と二緒にやっていきたいという議論が前からありました。道の駅は地域の拠点ですし、花壇があるし、そこに皆さん集まるところ。宮崎でも連携したいという話をしていきます。花壇の話とか、花植え

道が引いてあるので、水やりもできます。連携したいところについては、神村学園とはすでに連携していますが、他の高等学校などと連携していきたいなと思っています。昨年夏、高校生による国内最大規模の芸術文化の祭典「2023かごしま総文」が開催されました。パレード会場を飾る花を育ててもらうように農業高校をお願いをしました。

また、国体が開催されて、私のところはウエイトリフティングの元オリンピック選手がいます。国体の会場になりました。その会場から近いところに、認定こども園があります。その園児たちに、「花を一緒に植えて、国体の選手を応援しましょう」とお願いしました。用意したプランターに花を植えて、すこ



和気あいあいとした雰囲気の中、意見を出し合いました



びばあ園児と国体のおもてなしでプランターの花植え

とか一緒にやっていたい、連携が一年目は形になりつつあるなど感じています。実は最近宮崎で道の駅が相次いで、リニューアルとか新しく開設されています。高速道路が清武から西南方面に開通したんですが、道の駅のオーブン直前の「道の駅きたごう」で宮崎大学と武蔵野美術大学、地域の女性や地元の方々、道の駅の皆さんと一緒に、市長も参加されて花植をしました。花が綺麗にこう咲いているっていうのは、やっぱり来た人にとっても非常に心地よいですし、皆で地域づくりに関わっていることが実感できて、非常に良かったです。道の駅の駅長さんも、地域とつながりを重視されていたので、こういった連携で道の駅っていうものを支えていくということができたのは非常に良かったと思っています。

宮崎河川国道事務所、宮崎の道楽会議を実施していますが、構成メンバーも確定し、会議が事務所で行えるってことは非常にありがたいし、連携が進んでいく面で重要なことかと思いました。延岡の所長さんも参加されるということで、まさに宮崎県全体でこの三者連携の話ができており、形にだんだんなりつつあると思います。

あと、我々が最近意識しているのはみちづくしです。みちづくし開催となると、皆が一気に気分が高まっていくっていうか、やっぱり連携していかなくてはならないです。本場に良かったと思ったり、目につくところに道守という活字を見ていただけるようにして、国体でも道守というものをしっかりとアピールしたいです。また、私たちがインスタにあげて、一緒に風景街道の写真とか花植えしている状況とかを出せるようにしました。

基本的に薩摩川内は道守会員の中に道の駅も入っており、風景街道も道守会員の人が多くを占めています。

手をつなぐ連携する人々



熊本県 阿蘇市
道の駅阿蘇 駅長
下城卓也氏

私は、九州沖繩「道の駅」連絡会「駅長会」の会長を務めております下城卓也と申します。このたびは、道守九州会議が設立20周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

私たち「道の駅」も、道守九州会議と同じく、「道」に関する活動を行っている団体です。

そこで私たちは、道守九州会議と様々な形で連携を図ってきました。道の駅の日の一斉清掃活動や花植え、3つの輪活動などが主な例です。

これらの連携は私たちにとても大変有意義であり、道の駅の利用者や地域住民の満足度の向上に寄与する道の駅CSR活動として重要なものと認識しています。また、道守九州会議の活動に参加することで、道の歴史や文化、自然や景観、地域の特徴や魅力などを改めて学び、楽しみ、感じることができました。



3つの輪活動によるやまなみハイウェイの一斉清掃活動

道守九州会議の皆様には、これから「道」に関する素晴らしい活動を続けていただきます。私たちは、いつでも応援しております。

道守九州会議20周年、本当におめでとうございます！



大分県 豊後大野市
道の駅みえ 駅長
後藤節子氏

発足20周年を記念し、関係者の皆様へ心よりお祝いを申し上げます。

「みんなで心と力を合わせ、道をつくり、守る」「地域やボランティア団体と行政が協力し、道を守り育て、自主的に活動する」この素晴らしいコンセプトを実践されている皆様のこれまでの取り組みに、心より敬意を表します。

また、道守の皆様には、清掃活動や花植え等をご一緒にいただき感謝申し上げます。

今後道守の駅みえを拠点としてご活用いただき、私たちも道守さんと共に道や美しいまちづくり等に向けて連携を図りたいと思っております。

これからも社会に役立つ皆様の尊いボランティア精神や思いやりの心で行う、道守活動を楽しんで続けてください。

皆様の今後のご健康とご多幸を祈念して、応援メッセージとさせていただきます。



道守大分会議と菅尾小学校の夢の花植え

道の駅から

学び楽しむ拠点に

道に花を植える活動から、学生が育つ道の風景へ



西日本短期大学
教授
西川真水氏

道守九州会議設立20周年おめでとうございます。益々のご発展を祈念いたします。

2012年にNPO法人はかた夢松原の会からのお誘いを受け、学生達と始めた福岡市内の国道道路(国道202号)の植樹帯の花壇づくり活動は、この冬で12年目を迎えました。



長い植樹帯への花植え活動風景



地域の皆さんの手作りごはん、コミュニケーション

これからも「道」と「そこに咲く花」が学生達と社会をつなぎ、美しく活気あるまちを紡いでいくことを期待してやみません。

大学から

学生達が成長する舞台

2023年6月には、道守会議、長崎バス、長崎モトクルメンバ約60名と連携して軍艦島が見える海岸線の道路約8キロのヘルシーウォーキング&ロードクリーンを行いました。道沿いのアジサイや軍艦島が映る海を眺めながら楽しく活動を行いました。



軍艦島が見える海岸をチームで清掃



軍艦島が見える海岸をチームで清掃

世界遺産 軍艦島が映える海を守る！



team長崎シークリーン
代表
出水亨氏(デミー博士)

team長崎シークリーンは、長崎市野母崎半島の世界遺産軍艦島が見える砂浜、海岸、港、道の①環境美化、②環境教育、③地域の魅力発信です。チームは、小中学生・高校生、地域住民、漁師、大学・高校教員、自治体職員など産学官民で構成されています。

地域住民と海が問題になっている海岸、小・中学生と新入生の歓迎遠足でいく海岸や海開き前の海水浴場、漁師と釣客が多い漁港の美化を行っています。また、環境問題の研究に取組み子供たちに協力・指導を行っています。小学生は、科学教育展で表彰されました。中学生は、コカ・コーラ環境教育賞・最優秀賞を受賞しました。高校生は国際会議で発表するなど活躍しています。

活動の参加者に漁師から軍艦島の周りでとれる自慢の魚のふるまい、軍艦島が見える砂浜でマリンスポーツ体験、軍艦島周遊クルーズなどを行い、環境問題に加えて地域の魅力を伝えています。

2023年6月には、道守会議、長崎バス、長崎モトクルメンバ約60名と連携して軍艦島が見える海岸線の道路約8キロのヘルシーウォーキング&ロードクリーンを行いました。道沿いのアジサイや軍艦島が映る海を眺めながら楽しく活動を行いました。



まちなかフラワーパーク

道です。より多くの人が参加し、活動の輪が広がることを願うと共に、地域一帯となって活動を盛り上げていきます。

地域と共に歩む道守活動



一般財団法人
みやぎ公園協会
隔田佳代氏



青島まるごとフラワーフェスタ

私たちは都市公園などの管理運営や国道220号南バイパスをはじめとする道路の植栽維持管理、植物生産、植栽設計などの業務に長年携わっている団体です。同時に、地域の顔となる美しい道づくりやまちづくりに目指し、青島地域の住民とともに来訪者を花でお出迎えする「青島まるごとフラワーフェスタ」や市民約200名が参加する中心市街地の植栽ボランティアイベント「まちなかフラワーパーク」など、住民や地域に携わる様々な団体と連携した活動にも取り組んでいます。特にニッ葉地域では毎年春に地域2帯の花を楽しみながら神話スポットを巡るイベント「春のニッ葉神話と花めぐり」の運営事務局を担い、地域の人と一緒に玄関や店先に花を飾ることで花のまちづくりを推進しています。

日々の暮らしの中に美しい道があり、そこで暮らす人が誇りと愛着を抱き、後世につないでいく道守活動は美しい未来へと続く道です。より多くの人が参加し、活動の輪が広がることを願うと共に、地域一帯となって活動を盛り上げていきます。

高校生から

心安らぐ町と道に感謝



神村学園高等部
看護学科2年
日高杏音氏

いつも地域に住む私たちのために、道守活動をしてくださっている皆様。歩道の清掃や草木の植え付けなどを通して私たちの綺麗で住みやすい街づくりをしてくださりありがとうございます。

私は寮生として2年前から、このいちき串木野市に住んでいますが、たくさん四季が感じられる綺麗で安全なこの町が大好きです。きっかけになったのは、ある夏に、1人で散歩をしていたときのこと、歩道に綺麗に植えられたイチヨウの木がありました。そのイチヨウは驚くほど青々と元気に揺られていて、当時新しい環境に馴染めなかった私の沈んだ心を励ましてくれていたように感じました。そんなイチヨウの木も秋には色変わりをし、綺麗な山吹色は私の和心をくすくすさせてくれます。辛い時、嬉しくてウキウキしている時、いつもこの町の木々が私の心に寄り添ってくれています。



「2023かごしま総文」パレード会場

そんな素敵な町を作ってくださっている道守の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。これからも道守の皆様を心より応援しております。そして、私もこの町の員として、町を綺麗にするために頑張ります。

「道守メンバーとして」



第一生命保険株式会社
佐賀支社
上野彰久氏



清掃活動後に事務所玄関前で参加した第一生命佐賀支社のメンバーで集合写真

私も第一生命佐賀支社は昭和17年に佐賀県で事業を開始し、2024年で82周年を迎えます。現在、生涯設計デザイナーと呼ばれる営業担当が約300名在籍しており、営業活動だけでなく、地域域の皆さまにお役に立つ活動も行っております。

昨年度より、毎月第2水曜日に、地域貢献活動の一環として、支社周辺の清掃活動を実施している中、その場をたまたま通りかかった道守佐賀会議の世話人よりお声掛けがあったことが、道守との出会いでした。その後、道守佐賀会議の会合、県内イベント後の清掃活動に参加し、道守メンバーとしての歩みを始め、「みちづくし in 竹田2023」にも参加させていただきました。

今後、第一生命佐賀支社として、11カ所ある営業拠点のネットワークならびに約300名の営業担当のメンバーを活かし、道守活動の活性化に努めてまいります。あらためまして、道守九州会議発足20年、誠にありがとうございます。

三者連携の推進で、さらに前へ



道守九州会議 顧問
榑木武
(九州大学名誉教授)

21世紀初頭の九州は、道の整備が不十分なままに人口減・高齢社会に入ってきた時代である。このため、2004年の道守活動の結集は、十分な地図がないままのスタートであり、活動状況は、のほりをはためかせての道の整備や美化活動、地域イベントの支援、古代以来の道の遺産を守る活動などがあり、道守活動の根幹となった。その上で、地図の役を果たしたのが道づくし大会と道守通信である。大会は、強いて各県各地域を巡り、公と民、民と民の交流を深めるとともに、地域間を繋いだ。通信は個々の道守に関わる国内外の情報発信と取得に役立てた。加えて、地域間相互の交流を深め、設立当初からの活動の一環として九州各地で多彩な風景街道の推進に励み、道の駅を加えた三者連携を活発化させてきた。

つまり、地域の特徴に配慮して諸地域の自主的な社会活動を支援し、その発展に尽力してきたが、その結果が現在の道守5万人に及ぶ多彩な活動である。一方、道守会議設立後、頻発する大規模自然災害では、道守活動を機に根付いた道守相互の助け合いがあった。北九州や阿蘇の大会では、コロナをはねのける復興宣言が道守の苦闘として強く記憶に残る。

道守20年は、「人・道・地域」をつむいだすが、道半ばである。対する今後は、従来を踏み台に、交通革新、国際化のもとに描く道守の前進と質の向上を期待するものである。

人と人の縁が育つ、交流の場に



道守九州会議 顧問
岡本博
(元九州地方整備局 道路部長)

2001年4月に発足した小泉内閣で、聖域なき構造改革が提唱され、大規模・広範な改革が実施されることとなりました。その中で、道路に関しては、道路特定財源と道路関係四公団のあり方を見直すとの方針が出されました。

2002年8月には、社会資本整備審議会の部会から、「今、転換のとき」という提言が出されました。この提言の中では、歩行者・自転車重視し、生活環境の改善に資する道路整備が強調され、ユーザーの視点に立った開かれた行政運営が求められました。九州でも、2002年12月から翌5月にかけて、「人と道 その新しい縁」と題して、長崎、福岡、湯布院などでシンポジウムが開かれました。

2003年10月には九州各地で道のボランティア活動をされている27団体の意見交換会を企画・開催しました。それぞれの活動内容や楽しさ、悩みなどが活発に楽しく話し合われ、このような場を単発のものにせず、継続していくことが提唱されました。道守九州会議の設立準備が始まり、2004年2月に設立総会が開催されました。その後各県等に道守会議が設置されて、行政とも連携して活発に活動が展開されることとなりました。

道守九州会議は、設立後、日本風景活動や道の駅との連携にも取り組んで、今日まで20年にわたり継続発展され、より良い地域づくりに大きく貢献されてきました。九州道守会議設立趣旨には、「道と人との新しい縁」を紡ぐとあります。私としては、「道守活動を通じて、人と人の縁」が育っていく、楽しい交流の場ととらえています。毎年の「みちづくし」の場で皆様と交流できることを楽しみにしています。

行政との連携、幅広い協働へ



道守九州会議 副代表世話人
森将彦
(元九州地方整備局 道路部長)

道守会議発足は当時の岡本道路部長の想いからでした。道と市民等との関わりは苦情や相談、訴訟など公と私の利害等への対処が管理行政の主軸でしたが、一方で利害を離れ清掃美化や利活用など様々な道への働きかけや想いを寄せる方々がたくさんおられました。

当時の岡本部長がこれら皆さんの活動や悩みなどをお聞きしようと平成15年秋に懇談会を開催されたのが道守会議発足の契機でした。

懇談でいただいたご提案などをどう形にしていこうか、参加した榑木先生が岡本部長を交え各地の皆様の見聞も賜りながら検討準備し16年2月の九州会議発足となったのです。

情報共有や交流、学習などを通じた協働への皆様の想いは、地域間ネットワーク化を通じ多様な道守活動の広がりや地域連携と急速に発展してきました。産声から20年、発足関係者は高齢化しつつも新しい力の参加で新陳代謝も進みつつあります。

発足当時は岡本部長の想いと各地の道守さんと向き合う出先職員意識には乖離も多く散見されましたが、今では自治体等も交えより幅広い協働への意思疎通や連携が深まってきたことに感銘をうけます。

20年から更に次時代へ、道守九州会議に多くの若い力が集い、住みやすい美しい活気ある九州への働きかけが力強く推進されていけることを念願しています。

協働を紡ぐ「新しい縁」



道守大分会議 代表世話人
桑野和泉

道守九州会議が発足した2004年。当時、私が住む町・大分県由布院温泉は車の渋滞という大きな悩みを抱えていた。そこで「交通社会実験」を実施して「歩いて楽しい町」づくりを目指すようになったが、それはその後の、道を舞台にわくわくする時間の始まりでもあった。ゲストを迎えるの議論や現地視察などを通して、たくさん学びや楽しい思い出も生まれた。貴重な助言や言葉は、鮮明に残り指針にもなっている。ありがたい町の姿や美しい温泉保養地に向けて何をなすべきか。年月を経て、いま少しずつカタチになってきている。

「古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。」「道守」その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、旅人の飢えや渇きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は、住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。私の原点である。

会議発足から20年。少子高齢化・人口減少社会は進み、また九州は多くの災害に見舞われ、コロナ禍にも苦しんだ。その中、道守さんの活動は着実に営まれてきた。まちなかに緑や花が増え、「風景街道、道の駅、道守」の3つの輪の連携も始まり、やまなみハイウェイの清掃には九州の道守さんの参加もあった。

昨秋、竹田市で開かれた3巡目の「みちづくし」での大会宣言は「花咲く竹田。住む町をゴミとつない「花咲く街角」にしようという思いと、「道」を守ることで、みんながたのしく、笑顔で暮らせる町になるようにという希いがこもっている。これからも柔軟で強靱な地域社会を創造するために、日々活動を続けていきたい。

道守活動20年 支えてきた人たち

はじめに、道守会議発足時から活動の中心を担ってこられた今は亡き、川口道子さん、佐伯毅さん、阿野史子さんの三人をご紹介します。

花道守ふくおか会議発足時より活動を担った二人



はかた夢松原の会
故川口道子氏
(平成25年)

「はかた夢松原の会」理事長の川口道子さんと「名島校区花の架橋実行委員会」代表の佐伯毅さんです。

川口道子さんは、昭和63年に「花と緑とまちづくり」をテーマに海から川、山村や町などあらゆる場面で環境に配慮した活動を展開されました。道守発足当時は、放置自転車について社会実験を行い、福岡市民や学生たちと共に対策を考え、また、福岡市全域の沿道を緑の帯でつなぐために調査をしました。その成果は、放置自転車対策として福岡市役所に自転車課が創設され、緑の帯の実現は「一人花運動」として取り組まれていきます。何事にも先駆けて新たな視点で問題提起をし、実践活動を展開すること
は、亡くなられた今でも仲間たちが引き継いでいます。



放置自転車調査

道を緑の帯に

佐伯毅さんは、平成6年から名島橋周辺や国道3号沿線の清掃活動と花の手入れを毎月第1日曜日7時から続けてこられました。平成22年12月から、名島橋の親柱4本をサンタクロースのコスチュームで飾り、道行く人のみならず、国際マラソン参加選手にエールを送り、沿道の応援者たちを楽しませています。平成30年5月10日、名島橋が国登録有形文化財に指定され、名島橋を大切に守りたいと語っておいででした。亡くなる直前まで名島橋周辺の清掃活動をされていたとのこと、佐伯さんの遺志は地域の皆さんに引き継がれ、名島橋周辺の活動はもとより、12月にはサンタクロースで飾られた親柱は、今でも温かくエールを送り続けています。



名島橋掃除



名島校区花の架橋
実行委員会(福岡市)
故佐伯毅氏
(令和2年)

「ケイちゃん、みちづくしで道について話をしてくれない？」突然、阿野さんからかかってきた二本の電話が、私と道守との出会いでした。阿野さんは不思議な魅力を持った人でした。その魅力に吸い寄せられるように、阿野さんのサロンには大学教授や政治家、企業経営者、行政マンが集まり、地域の未来について議論が交わされています。そこに居る人の立場に上下はなく、唯一の資格は阿野さんのお眼鏡にかなっているということでした。もちろん歴代所長もメンバーでした。噂を聞きつけて参加した報道記者によつて、その夜の議論が翌日の紙面を飾ることもあれば、社会を動かす活動に転ずることもありました。彼女の存在は集まる人達や地域に大きな影響を与えていました。常識では無理だと思えることでも、阿野さんが発案すれば、自然に様々な能力のある人達が集まって不思議と実現することができました。「私の役割はね、人と人を結びつけることなのよ。」これは、阿野さんの口癖でした。阿野さんが築いてきた道守さんたちのネットワーク

「私の役割は、人と人とを結びつけること」



道守長崎会議
故阿野史子氏
(平成25年)

「ケイちゃん、みちづくしで道について話をしてくれない？」突然、阿野さんからかかってきた二本の電話が、私と道守との出会いでした。阿野さんは不思議な魅力を持った人でした。その魅力に吸い寄せられるように、阿野さんのサロンには大学教授や政治家、企業経営者、行政マンが集まり、地域の未来について議論が交わされています。そこに居る人の立場に上下はなく、唯一の資格は阿野さんのお眼鏡にかなっているということでした。もちろん歴代所長もメンバーでした。噂を聞きつけて参加した報道記者によつて、その夜の議論が翌日の紙面を飾ることもあれば、社会を動かす活動に転ずることもありました。彼女の存在は集まる人達や地域に大きな影響を与えていました。常識では無理だと思えることでも、阿野さんが発案すれば、自然に様々な能力のある人達が集まって不思議と実現することができました。「私の役割はね、人と人を結びつけることなのよ。」これは、阿野さんの口癖でした。阿野さんが築いてきた道守さんたちのネットワーク

は、この20年で活動の幅を広げています。



馬町地下歩道ワークショップ

人と人を結びつける人柄



道守九州会議交流会2006_みちづくしinNAGASAKI.

コスモスとともに歩んだ20年



道守うきはネットワーク
代表(福岡県)
家永重信

南に耳納連山がそびえ、北には筑紫次郎の名で名高い筑後川が流れ筑後平野が大分県境まで延びています。その真ん中をJR久大本線が久留米から大分まで走り並行して国道210号バイパスが走っています。

その国道210号バイパスにおいて、平成13年より活動を開始し、それから22年間が経ちました。また、平成18年より二代目会長の後を受け継ぎ今日まで17年間

地域愛が大きな輪に



210号のコスモス開花

「千年コスモス代表」として勤めてまいりました。

平成27年道守うきはネットワークが発足、今日に至っていますが、その間、道守九州・道守福岡の皆さんのご指導とご支援を頂きながら地域の皆さんの地域を愛する心が大きな輪となりコスモスの花を満開にして参りました。

これからも道を愛し、道を守り、楽しく道守活動をして、道行く人々が花咲く国道210号に足を運んで下されば幸いです。今後とも清掃活動を行う人や植栽活動を行い、いろんな場所で、いろんな道路で、道守活動が進められてほしいと願っております。



発足式

九州各地でこの20年間、絶えることなく「できる人ができることから」を合言葉に花を植え、清掃活動をしながらお互いに「みちづくし」で繋がり、思いを共有しながら地域のために道守活動が続け、これからも頑張ります!!

『道を研究する会ロードネット佐賀』から、『道守の活動』へ



道守佐賀会議
世話人
伊勢留美

平成14年度「歩く道」「人の道」「つながりの道」をテーマに当時県内でさまざまな分野で活動をする女性6人で「道を研究する会ロードネット佐賀」を立ち上げました。そのころ県では、有明海沿岸道路着工が目ざす気運が高まりつつある中、私達は県内で『道』の勉強会を行い、有明海の自然・歴史・食文化などを再確認し、その道から広がる地域の宝物を発信することにしました。まず各市町の女性団体に声をかけたところ、今まで道に関する事で女性の意見を述べる機会が殆どないとのこと、女性の話し合いだけでは「つぶやき」に終わるのではないかと思ひ、同時に市町の首長や関係者に呼びかけました。地域の特産物、自慢料理を持ち寄り、食事をしながら、「道に関する問題点」を出し合う「くるま座だんぎ」を平成20年までに13市町で開催しました。



くるま座だんぎ

女性たちのくるま座だんぎ

「有明海沿岸道路が出来れば、親の介護に熊本までいつでも行けるので助かります。」との声、家族の安全・安心の面から経済活動、情報や人が交流する道、福祉、災害時避難場所などの提案がありました。17年には佐賀城本丸歴史館で「くるま座だんぎ」を開き、ある道の駅長より、「身障者駐車やパーキングパーミットの設置提案」があり、国の機関も同席されていたので、すぐに取り上げて頂きました。次に17年から「地域の活性化」「街の美化活動」「道守活動の普及」を目的として「佐賀城下ひなまつり」での清掃活動を始めました。最初は60名くらいの参加でしたが、年々増え現在では150名くらいの参加で実施しています。ひな祭り見学者に意識調査をした中で「道」がきれいに清掃され、歩くのが楽しい」との声が寄せられ、毎年継続中です。これからおもてなしの心で清掃活動を広げていきます。

また、活動から20年余りで、令和4年11月12日には、沿岸道路も佐賀市諸富まで完成し開通前の清掃活動を行い、記念に巻布にその喜びを記帳しました。これからは、官民一体となって長崎まで、ツウ、ツラ、ツウ」と走れるように早期実現を期待して活動に励みたいものです。



有明海沿岸道路の清掃



水道町での花壇づくり。大きな花壇が4箇所あり、日々水やりや手入れを行っている

道路美化、観光に寄与

これまで続けられてきたのは、きれいな街を作りたいという強い思いで、花壇だけでなく道路周辺の草刈りや、主要な街道の樹木周辺の草刈りなども進め、道路美化に励んできた。今もこの作業を進める中で、道路への不法投棄も大幅に減って、観光への環境整備にも寄与している。その結果、道路美化に対する人々の関心も高まり、誇りをもってボランティアを続けている。多くの若手の参入を願っている。

道守くまもと会議は、70程の登録団体で構成されている。各々の団体で高齢化や経費獲得などいろいろ課題を抱えているものの、若手も参入し寄付集めに努力することで道路美化をテーマに活動を続けてきた。



道守くまもと会議
代表世話人
坂本 正

花壇づくりをテーマに

花壇づくりと花壇周辺の道路清掃が主たる活動で自由楽しくボランティア活動を熊本県下で展開してきた。

花壇づくりは、除草、開墾、苗植え、灌水、除草、堆肥、防虫、の一連の作業が通年で必要。熊本市内では年二回これを繰り返している。特に水道町の4か所の花壇は多くの市民を楽しませているが、そのボランティア活動を地道に続けてきた。植えばなしではきれいな花を咲かせられないのでこの作業が必須だが、この作業をするときは必ず周辺の道路作業をしている。



道守佐賀会議
事務局長
前田 耕介

これからの道守活動を見据えて

平成16年2月道守九州会議が発足された後、同年7月に道守佐賀会議が発足しました。佐賀県内で日頃から道路の清掃活



H16 道守佐賀発足会議

新たな仲間も加えて

道守活動20年、当初からの会員も少しずつ入れ替わり、現在は三原代表世話人を筆頭に15名の世話人と32の会員団体で運営しています。ここ数年は会員増強にも力を入れており、新たな仲間も加わりました。これからの活動に継続しながらも、各会員団体が活動を継続しながらも、楽しく道守活動に参加していただけるように、事務局を運営していきたいと思っています。

私が引き継いだ時には、道守佐賀会議として活動内容がしっかり固まっていたのですが、発足当時はいろいろなことでの取り決めからしてなかなか進められず、大変だったと思います。なかでも第1回目の佐賀県開催となった「みちづくりin佐賀2011」では、手探りの中での企画立案に加え、準備にかかる資金繰りも大変だったと聞いています。

道守活動20年、当初からの会員も少しずつ入れ替わり、現在は三原代表世話人を筆頭に15名の世話人と32の会員団体で運営しています。ここ数年は会員増強にも力を入れており、新たな仲間も加わりました。これからの活動に継続しながらも、各会員団体が活動を継続しながらも、楽しく道守活動に参加していただけるように、事務局を運営していきたいと思っています。

人々との出会いが継続の力



長崎
環境美化を考える会
代表
田口 昭子

私たち「環境美化を考える会」が発足し24年の月日が経ちました。当初は私も若く、思い立ったら即実行で気づけば会員100人を超える大きなグループになっていました。振り返れば苦しいことばかりの日々でしたが、多くの人々との出会いがここまで継続した理由ではないかと思ひ感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、道守が今年20周年ということで大変嬉しく思います。私は道守発足当初から道守長崎会議の西海地区世話人として活動してきました。そこで、道に対する情報や各地区との交流、意見交換等を通じて、活動の輪の広がりを感しました。



枝葉はチップ化してたい肥に

百年でも二百年でも

近頃「SDGs」という言葉をよく見かけます。横文字が苦手な私にとっては言葉にするのも難しいですが、ようやく世界が地球を守ろうという声を発信したのだ、と思うと今までの活動は無駄じゃなかったと強く感動いたしました。

地域の除草作業やゴミ拾い、小学校への食育学習、地域イベントのボランティアなど多種多様な私たちの活動ですが、運よく後継者を見つけたことができました。10年前に農業高校を卒業後、会の活動に賛同し共に活動してきた谷口雅樹(28)です。現在は清掃後の草や木を活用して自然栽培をし、野菜等の加工品販売にも精を出しています。「100年でも200年でも続ける」その言で、会の未来を託しました。



谷口氏

最後になりますが国土交通省をはじめ、道守活動にご尽力いただいている皆様方には心よりお礼を申し上げます。「環境美化を考える会」はこれから先も元氣な地球を守るために活動してまいります。

ツアーガイドや歴史研究



下町惣門会
会長(熊本県)
井口 圭祐

道守九州会議20周年、誠にありがとうございます。長年の歩みに心から敬意を表し、お慶び申し上げます。私たち「米惣門ツアー」を主催する熊本県山鹿市の「下町惣門会」は2000年から米をテーマに街道沿いの麹屋、酒蔵、せんべい屋、寺院などを店主たちがリレー方式で案内する観光ツアーを始めました。当初より、同じような活動事例もなく情報収集と交流ということで道守会議に入会いたしました。



ツアーガイドメンバー

会の活動はツアーのガイドの他に地元での歴史研究です。水運が盛んだった頃、山鹿の経済には欠かせない地域であり、また江戸時代には、冠木門(南の木戸)の存在が判明し、山鹿市と菊池川河川事務所との協力により再建されました。その後山鹿市の歴史的町並み整備事業により菊池川から八千代座まで、電線地下埋設工事が完了しソフトとハード整備の両面で活性化を図って来ました。

ツアーの参加者は年々増加し、多忙を極めていましたが新型コロナウイルスの影響で、9割減、団体客はほぼゼロの状況となりました。そのような中、2021年、道守九州会議より長年の活動に対し、表彰をいただきました。ありがとうございました。これからの道守としてツアーのガイドとしてチームワークで、地域を盛り上げていきたいと思っています。

コロナ禍を乗り越えて



木屋本店での歴史ガイド

私たちの会を育んでくれた道守活動



「中九州横断道路早期完成を願う女性の会」
会長（竹田市）
堀 幸子

私たちの会は、設立直後の道守大分会議に入会しました。また「日本風景街道」取り組みについても多くの会議に参加し勉強させて頂きました。なおかつ、日頃お会い出来ないような先生方ともお話しする機会に恵まれ、今なお私たちの活動を導いて下さっています。



“みちづくしin竹田2023”道守大分会議の仲間の皆さん

子どもたちとの協働

道守大分会議としての私たちの活動は、小さな子どもが、道案内の「通り名」提案・花植・岡藩城下町ひな祭りへ竹籠を創つての参加・普生小学校のこども達との地区清掃活動・道の駅でポスター掲示をお願いし広報して頂く等を行って来ました。また、国道442号「やまなみハイウェイ」の三愛から岡城跡までを「魅惑のバイウエイ竹田」として今回の「みちづくしin竹田2023」大会でPRでき、参加者の皆様方に竹田を楽しく頂きホッとしています。

みちづくしでも発表したように、43年間続いていた普生小学校のこどもたちの「自分達の故郷は自分達で護ろう！」の純粋な心（道の大切さ、道を取り巻く人達、物などに感謝する心、思いやりの心）に導かれ今日まで続いてきています。

道があつての道守活動です。「道づくりはひとつくり、まちづくり」をメインテーマに活動してきた私たちにとって、道守大分会議の活動はそのことを実現させてくれたと実感しているこの頃です。私たちに指導、ご支援下さった方々、一緒に活動して下さった方々との絆がいつも私達を励まして下さり、感謝しても仕切れない気持ちで一杯です。

これまでの私たちの活動記録は200頁以上になりました。その記録が「道守大分会議ありがとう！」と言っています。

道守の老齢化を乗り越えて



宮崎市長
橋通りフラワーロード推進協議会
代表
日高 晃

「いこうやし」
自分たちが暮らしている地域社会を少しでも良くしていきたい。
自分に何かできることはないか、自分に問いかける。
地域が抱えている課題を自ら取り組んで解決していきたい。
将来ビジョンをみんなで語りあい、構想を掲げ計画立て活動していく。

九州各地で活動している団体が一堂に会して、道守九州会議が設立された。行政とのパートナーシップを掲げて、これからの社会の在り方について理念を語り合った。協働して「新しい公」を築こうと各県ごとに道守会議が設立された。平成16年に道守みやざき会議が設立され、県内で活動している道守さんの素晴らしい活動報告を基にした意見交換は非常に新鮮で有意義だった。道守は、「活動が主体」である。その担い手こそが「道守さん」です。県内で県北・中央・県南と地域ブロックに分け、地域ごとに国道河川事務所と連携をとりながらきめ細かな活動体（ムーブメント）を目指していきました。

宮崎県は、昭和38年に全県公園化構想を、昭和44年には沿道修景美化条例を設け全国に先駆けて美しいロードパークづくりをはじめました。日本風景街道のモデルにもなりましたね。

道守は活動が主体



2016年道守総会での活動報告



2014年まちなかフラワーパーク恒例の植栽前準備運動

残念なのは、道守さんの老齢化で活動が消えてしまったところが目につくようになったことです。そして、「新しい公」という言葉が聞こえてこなくなったのは私の気のせいでしょうか。道守さん、美しく誇りの持てる郷土にしていきたいですね。

別大国道に50本の街路樹



道守大分会議
副代表世話人
亀野 辰三

①別大マイツリー活動
マイツリー活動は、別大国道の歩道に住民自らが植栽し、自らが「里親」としてお世話する取組みで全国の直轄国道では初めての試みでした。平成16年に50本の街路樹を「里子」としてマイツリー活動がスタートしましたが、現在では一般市民の他に大分県に4つあるプロスポーツクラブにもマイツリー会員になっています。

マイツリー活動



別大国道でのマイツリー活動

②別府大分毎日マラソン前日一斉清掃
別大国道を舞台に行われる「別府大分毎日マラソン」。その開催前日に会員と大分河川国道事務所職員の方々が平成25年から共同でボランティア清掃を行い、別大マラソンに参加する選手らをおもてなしの心で迎えておられます。また、平成27年からは大分県が推進している「ごみゼロおいた作戦」とも連携し、共同で清掃活動を行っています。

③道路協力団体への登録
平成28年4月より「道路協力団体制度」が創設され、道守大分会議が設立以来行ってきた様々な活動が認められ、平成29年1月に大分県では初めて「道路協力団体」として指定を受けました。これを受け、道路空間を活用した収益活動が可能となったことから、民間企業に協賛金を募り、別大国道の歩道橋に道路愛護の啓発横断幕を設置しました。



歩道橋に啓発用の横断幕を設置

子供が親をしつける社会に



道守みやざき会議
元世話人
矢野 初美

「人の気配を感じる景観に」を念頭に活動していますが、もう20年の月日が流れたんですね。

当初は10月23日の道守二斉活動に合わせて賛同いただいた団体、個人約30名の方々と特に汚れのひどい国道326号大分県境に位置する水の駅から先の越トンネル周辺の清掃活動に精を出し頑張りました。

ほぼ10年間は続けたと記憶しています。昨今は残念ながら、会員のみなさんが程よく年齢を重ねて足腰がままならない、運転手は君だ、の状態になってしまいか、活動はお休みしていますが道守さんは各所に点在して思い思いの活動しておられます。美しい里づくりと人の気配を感じる景観を維持することはとても大変です。里山が林になり森になり獣が庭先まで出没するようになって米も野菜作りもあきらめた農家さんも多く花の植栽など夢のまた夢です。

美しい里づくりと景観を



廃材を利用したオブジェの空間作り

ただ何もないと、ある日突然ジブリのオブジェを手作りして広場に飾ったことにより毎日のように車やバイクの来場者が訪れるようになりました。程よい年齢を重ねた我々シニアには意味不明な事態に驚くばかりですが、賑やかになったことはとてもうれしい限りです。



手作りのジブリのオブジェ

私たちに出来ることは来てよかった、また行きたいと思っただけのように安全な場所を提供することだと思っています。遊びに来られる方も喜んで迎える地域住民も互いに思いついて美しい景観を維持していきますように願っています。

道守みやざき会議も更に繋げていくように学校に働きかけていくことが大事だと感じます。子供が親をしつけていける社会になるとポイ捨てなどなくなるのではないかと思います。



薩摩川内市商工会下飯支部
経営支援員
窪いつわ

私たちの住む飯島は、薩摩半島から西へ約30kmの島で、上飯島・中飯島・下飯島と3島が縦につながっています。私たちは、薩摩川内市商工会の女性部下飯支部で現在18名の部員で活動しています。

活動の中で下飯島内5か所に道路の美化を目的として、あじさいの植栽を平成17年に行い、現在まで周辺の草払いや、花の剪定作業等を毎年行っています。平成19年2月に鹿児島県ふるさと道サポーター認証書を頂きました。

又、同年8月には道路愛護団体知事表彰を受賞しました。

最初は部員があじさいの枝をもらいに行



あじさい園(下飯島)

あじさいの道づくり

き、挿し木から始まり植栽をしました。根付かなかつたり、枯れてしまったりしたので、何度も同じ作業を繰り返して今では各箇所の道路際に10本から20本のあじさいが毎年花を咲かせるようになりました。花が咲き終わると剪定作業になりますが、剪定時期が遅れてしまい次年度の花に影響を及ぼすこともあります。どの肥料を与えたらどんな色の花が咲くか、選定作業はいつ頃が適切か、女性部員が意見を出し合いながら、手入れをしています。少しでも多くの人の目に止まり癒しになることを願ってできるかぎりこの活動を続けていきたいと思っています。



道守かごしま会議
副代表世話人
ばら通り220協力会
肥田眞八郎

国道220号緑地帯330mに500株、国交省、鹿屋市の協力のもと、バラを植栽・美化活動を行っています。

札元商工親睦会を中心に地区町内会、老人会、沿線企業など10団体で構成されており、年間計画を作成、町内放送、町内会新聞で連絡、冬場を除く年9回、朝7時から1時間の作業をしています。

当初は1回30人前後でしたが年をおうごとに参加者も年々増え、現在は50人越えになりました。コロナ発生の3年間も1回の中止もなくマスク姿で除草作業に頑



札元商工親睦会 鹿屋市札元町内会のみなさんと
令和5年6月25日(日)国道220号線 ばら通り220 除草作業

コロナ禍にも負けず

張ってもらいました。親子連れの参加も多くなり地域での世代間交流・親睦も深まっています。

数年前からエリア内の数社の店舗が自主的に除草手入れ等を行い「ばら通り」への関心が高まってきました。

年間を通じて病害虫防除の薬剤散布と除草の処分は鹿屋市の協力もあり、春と秋には、赤、白、ピンク、色とりどりのバラが咲き、地区住民はもとより通り過ぎるドライバーの心を和ませればと思っています。



除草作業終了 気分爽快

私たちの道守活動

20年の軌跡と未来

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介します。

福岡 「継続」と「チャレンジ」で!

九州7県の中で最大の会員

道守ふくおか会議の設立は、北九州市と福岡市の政令市を抱え、福岡県内で活動されている団体への声掛けなどを行い、平成17年3月23日の九州7県の中で最後に立ち上がりました。設立当時は100に満たない団体の参加でしたが、今では、160をこえる団体に広がっています。

福岡県各地での活動や交流を円滑に進めるためには、直轄事務所(福岡国道、北九州国道、有明海沿岸国道)や関係自治体の継続的なサポート、道守九州会議の支え、ふくおか会議の世話人の皆様方の熱意のたまものと感謝しています。

ふくおか会議の特徴

ふくおか会議の特徴の一つとして、市ごとに道守ネットワークが形成されている自治体が多いことです。中でも、北九州市の「北九州市道路サポーター」は、北九州市の支援体制も



みちづくしin北九州2021
門司港「ハート花壇」で道守活動体験

充実しており、9千2百人を超える会員の方々が北九州市内一円で活動の輪を広げています。道具の提供や保険の仕組み作りが支援制度になりがちですが、意見交換の場づくりを積極的に取り組んだことが活動の広がりの理由の一つと言えます。

久留米市や柳川市などの県南地区では、自他体ごとに道守ネットワークの仲間づくりが行われ、今では、県南の6自治体で「道守ネットワーク」が活動を展開し、自治体を超えた交流の場として、平成23年から、各自体持ち回りで県南会議が開催されており参加団体の多い福岡ならではの活動になっています。

また、地域の方々や学生さんたちにも声をかけ、大きな広がりを見せている活動も増えてきました。地域の歴史的遺産を守る活動(国道3号名島橋清掃会、柳川「堀と道」クリーンアップ大作戦)、通りに花で彩をそえる活動(国体道路花いっぱい運動、おむた花街道プロジェクト、うきはコスモス街道)、福岡マラソン「おもてなし」斉清掃“など、地域には欠かせない活動になってきています。



福岡市・国体道路で園児と一緒に花植え



うきはコスモス街道での種まき

「これからも「継続」と「チャレンジ」で!

ふくおか会議では、これからも「できる人が、できることから」の精神で活動を展開していくことで、「道守」の輪が確実に広がっていくと信じています。行政の理解や支援があつてこそ活動にはなりますが、個々で活動している団体・個人声をかけて参加してくださる地域の方々が笑顔で交流できるよう、新たな取り組みにもチャレンジしながら活動を拡げていきたいと思っています。

毎年、九州各地で開催されています「みちづくし交流会」福岡からも多くの道守さんたちが参加されます。ほかの地域の方々との意見交換や交流はとても刺激をいただいています。県をこえた交流を増やし、風景街道との連携やインフラ学習会などにも積極的に取り組んでいきたいですね。

(道守ふくおか会議
事務局長 柳田誠二)



みちづくしin竹田2023 道守ふくおか会議メンバー

私たちの道守活動



道守養成ユニットの会



team長崎シー・グリーン

(5) 防災活動への広がり
今年度より道守長崎の世話人となった渋谷氏は防災士の資格を持っており、6月末からの大雨等による被害を受けた久留米市田主丸地区にて、災害ボランティア活動を実施しています。このように、地道に続けてきた活動により人と人との繋がりが増えていき、各々



させば防災ネットワーク
久留米市田主丸地区での災害ボランティア活動



環境美化を考える会(西海地区)の食育活動

(1) 子供たちへの広がり
西海地区の環境美化を考える会では、除草した草や生ごみなどを発酵させ肥料を作り、農薬や化学肥料を使用しない野菜作りを子供たちと一緒に作り、最後は収穫した野菜を家庭科室で一緒に調理して食べるという、食育活動を行っています。

(2) 若い人への広がり
若い人へ関心を持ってもらうために、サッカー観戦と道守活



サッカー観戦前の道守活動

(3) もう一つの道守への広がり
長崎大学大学院工学研究科インフラ長寿命センターでは、道路インフラの維持管理技術者を育成する「道守養成講座」を実施しており、そこで学んだプロの技術者集団である「道守養成ユニットの会」が、道を守る活動をボランティアで行っています。

(6) 道守・風景街道・道の駅の「3つの輪」
道守長崎会議では、道守と風景街道の両方で活動しているメンバーが多く、例年11月に実施している「ながさきサンセットロード」と「島原うみやま街道」の「斉清掃」などで常に連携して活動してきました。また、令和3年より「道の駅の日(4月22日)」の花植え活動のお手伝い等で道の駅との連携が始まっています。こうした連携が深まってきた、以前より発行していた「道守長崎通信」の名称を「長崎3つの輪通信」と変えて道守・風景街道・道の駅それぞれの情報を掲載し情報発信を行っています。

このように道守長崎会議は、今までどおりの地道な活動を無理なく続けつつ、出会った新しい繋がりを大事にして活動の幅を広げています。

(道守長崎会議 代表世話人 牧圭子)

長崎

ひろがる六つの活動

道守長崎会議は平成16年に設立し、初代代表世話人の阿野氏を筆頭に、各地で道を守る活動に取り組んできました。これまで道守活動を続けてきた中で、様々な出会いがあり、人との繋がりが生まれ、道守活動は様々な活動へ広がっています。ここでは、代表的な6つのひろがりをご紹介します。

動をセットにしたイベントを開催しました。いつもの道守メンバーに加え、サッカー観戦目当ての若い人もたくさん参加してください、みんなで道守ベストを着てスタジアムまでの道のりを清掃しました。

の道守さんが得意分野を發揮し、道守活動が広がります。

佐賀

「継続は力なり」のその先に

平成十六年二月二十五日に道守九州会議が発足し、約四ヵ月後の平成十六年七月五日に道守佐賀会議が発足した。十三団体が名を連ね、佐賀県内の「道」を舞台とした活動が始まった。



いい汗かきました。【花植え体験】花や土などの自然と楽しい触れあい



県内テーマを決めてバスツアー(西九州道路の工事見学)

当社が事務局を務めることになったのは、当時の佐賀国道事務所長を務められていた岩屋信二郎所長から、発足に当たっての初期メンバーとしての参加を依頼され、発足会議に参加したところ事務局として各団体の下支えをしてほしいとの要望があり、快諾したそうだ。以来、二十年に渡って、心許無いながらも「企業」として懸命に努めてきた。

初代の代表世話人は、ロードネット佐賀の渋谷里美様が務められ、その後NPO法人活気会の三原ユキ江様、多門市そらじの会の山崎昌治様、再度三原ユキ江様が務められ、現在に至っている。驚くべきは、渋谷様と山崎様は今も世話人として活躍され、二十年の長きにわたり「道」での活動を

ボランテア活動とは、自由意志に基づく「自発性」と、共生する社会を目指す「社会性」、これに「無償性」と「創造性」を加えた四原則で成り立っている。私はその四原則に「人間性」を加えたい。

継続されている。まさに「継続は力なり」である。しかし、一方では「後継者がいない」という事実の裏返しであり、各県会議や多くの活動団体の方々の喫緊の問題である。ボランテアという奉仕活動が敷居を高くしているのではないだろうか。



「佐賀城下ひな祭り清掃」コロナ禍で3年ぶり17回目開催でたくさんの方が集まりました



さくらマラソン応援清掃
平成27年より継続して実施



R6.2.3 道守絵巻

「つながる・ひろがる」道守活動

20年前、第1回「みちづくし九州大会」を熊本市で開催しました。基調講演を私が出しました。当時「道守」など何も知らないとき、私は大分から熊本城「参勤交代歴史の道」を歩き青少年育成のグループリーダーとして活躍していました。400年の前から今も使われている「歴史の道」の重要性や道を通しての青少年育成の大切なことを話したことを覚えています。それから20年「参勤交代の旅」は2023年で44回目を迎えました。



大分から熊本城まで九州横断参勤交代徒歩の旅

道守くまもとは花壇の花植えや道路のゴミ拾いなど道路美化や河川草刈りなどボランティア活動を続けています。この間、熊本地震や人吉球磨地方の大水害など熊本は大被害を受けました。

7年前の熊本地震では益城町や阿蘇地方の震災地へ仲間と共に直ぐボランティア活動に行きました。益城町道守会員の井川寿範さんを訪ね益城町で被災された家屋のブルーシート張りをして雨から被災した家屋を守りました。半年間連日益城町に行き家屋の整理や泥出しなどしましたが道守さんもボランティア活動に参加してくれて、その後益城町と自然を愛する会ボランティア隊で防災協定を結びました。人吉・球磨地方の大水害では連日床下の泥出しなど3か月に及ぶボランティア活動を連日しました。コロナの影響で県外の方たちのボランティア活動ができず道守ネットワークボランティアの活躍は大きなものがありました。益城町赤井区



熊本地震でのボランティア活動



防災協定を結んだ自然を愛する会ボランティア隊

井川さんたちは地震のお礼にと人吉市や球磨村、相良村を訪ねチューリップの花植えをし、今でも継続して一緒に花を育てています。今年は、ネモフィラにチャレンジされています。春先には、ブルーの絨毯が誕生することでしょう。

道守を通じて人と人がつながることがこれからも大切な役割でもあると考えます。そんな思いを実践すべく3年前から大分県と熊本県をまたぐ県道11号通称やまなみハイウェイの美化活動とシンポジウムを道守メンバーが実施しています。道路関係者や沿線市町村、銀行や会社団体に加え環境省阿蘇事務所からも参加があり、確かな手ごたえを感じています。昨年のみちづくし阿蘇大会開催で阿蘇道の駅や沿線の道の駅、地域住民も



チューリップの里 赤井区

加わりその輪が広がっています。阿蘇市の未知を考える女性の会や南小国町ボランティア行動隊など地域を支える方々とこれからも「つながる・ひろがる」活動の輪を広げていきたいと思っています。(道守くまもと会議世話人阿南誠志)



3回目を迎えたやまなみハイウェイの美化活動

「進化」と「深化」を目指して

●20年の軌跡
大分の活動実績を簡単に振り返ると、2004年(平成16年)3月発足後、別大国道6車線化を記念し、国道に民と公が一緒になつてマイツリー植樹を行ったことが全国でも目新しく、活動の中心になりました。今でも別大国道は私たち道守大分会議にとつて、ホームとして重要な拠点です。

大分市の顕徳町デウスクラブや、生石港町自治会は、会長さんの代が変わっても地域の活動に精を出し続けてくださり、みちづくしで大活躍した竹田市立菅生小学校は40数年間、日田市立北部中学校では20余年、校区の皆さんと共に清掃活動を行い、道守精神がしっかりと根付いています。

竹田市の「中九州横断道路」早期完成を願う女性の会、佐伯市の蒲江道づくりを考える女性の会は、中九州横断道路・東九州自動車道など現在開通している道の開通要望を長きに渡り行い、そ



国道57号「ゴミ0作戦」活動中の菅生小学校

広域連携していく活動にも発展。日本風景街道との「笑顔のガーデン」は高齢化で管理できなくなった花壇を学生や企業に呼びかけマッチング。この活動は県内各地で作成している「おもてなし花壇」や、広域連携となった道の駅との3者連携「3つの輪」に繋がります。

●地域課題と素材に磨きを
現社会では「私」というプライベートな場と「公」というパブリックの場は強固に存在しますが、残念ながらその間を繋ぐ「共」の領域が脆弱になつてきたように感じます。しかし、私たち道守活動はこの20年間「公」と良い関係性の中で、花植えや清掃活動など「共」の場を創出し実践してきました。

道守は、自発的な行動を起こす人々の結びつきにより成り立っています。諸先輩方の活動力や道守精神を引き継ぎ、これから持続可能な活動をするためには、進化を受け入れ、同じ志を持つ新しい仲間との関わりを増やし、地域の課題を解決し、地域の素材に磨きをかけていく役目を担っていると感じます。道守は、家庭や職場とは別に、人々が気軽に集い、話し、笑い、誰もがコミュニティに参加できる「第3の居場所」として深化し、主体性をもった人材育成、心豊かな道づくり。

地域づくりを行い、地域に貢献、彩りを与えられる役目を担っていきたく思います。(道守大分会議事務局長木ノ下結理)



JR大分駅と交差する10号沿いを企業と協働清掃



鹿児島

一歩一歩着実に



花植プランターづくり体験活動

道守かごしま会議は、「道に関わる活動をされる方々のネットワークの形成、情報交流の促進に寄与していこう」と平成16年7月7日に設立されました。その活動に欠かせない会員は、12団体40名で始まりましたが、令和5年4月現在では、88の団体と個人会員で構成され、会員数は約6,400名となっています。

○会員の現状と効果
薩摩半島、大隅半島そして離島の大島郡瀬戸内町と鹿児島県内各地に会員があり、各会員はその地域に根ざした、地域に欠かせない活動を行っています。

例えば、薩摩川内市では休耕田を活用し会員の皆さんと共同で作ったコマの売り上げで、南九州自動車道の薩摩川内都IC国道3号交差点付近の花植え、除草等に加え、年末には、その年の干支をモチーフにした門松を設置しています。また、鹿屋市では、国道220号沿いにバラを植樹し、除草、施肥剪定などの毎月の美化清掃活動に、町内会の小学生等の家族ぐるみの参加を促し、地域での世代間交流・親睦を深めるなど、多くの会員の道守活動を通じ、少子高齢化が進む地域の地域振興・活性化に寄与する活動を行っています。

○今後
地域の少子高齢化も進む中、活動を引退された団体もあります。一方で、新たに入会される団体の方もいらっしゃいます。道守かごしま会議では、活動の輪を広げるため、道守会員相互の交流と連携を層深めるとともに、他団体との連携にも取り組んでいきたいと考えています。今年(2024年)秋には20回目のみちづくしが鹿屋市で予定されていますので、その契機となればと期待しています。

(道守かごしま会議 事務局長 丸久哲郎)



鹿屋市礼元商工親睦会花壇の手入れ

宮崎

道守仲間の笑顔に支えられて



2004年に商店街のある社長さんから、道守会議というものを立ち上げるので事務局をやってくれないかと頼まれて早や20年が経とうとしています。商店街で花の植栽の事務局を仰せつかったのですが、ついでにやってみようという軽いノリだったので受けてしまったのだけど、まさか20年も道守みやざき会議の事務局を続けるとは当時は思ってもいませんでした。春と秋の中心市街地の一斉植栽に加え、九州各県の交流会



20年続く春と秋の中心市街地の一斉花植えの出発式

「みちづくし」への参加、世話人会と総会の招集・開催、学習会の開催等年間を通じての事業がほとんど広がっていくという目を見張るような事業の拡大は想定外でした。こんなに忙しうってボランティアの範囲は超えている

など思いながらも、宮崎県内で元気に活動されている道守さんたちの笑顔に支えられて今までやってこれたと思います。県内はもちろん、県外の道守さんたち、それぞれ自分たちが住んでいるところは土地柄も歴史も文化も異なるけれど、地域を愛する気持ちは皆同じ。そんな人たちの期待に応えたいという思いで、毎年10月を県内の道守月間として定め、参加する団体もどんどん増加してきました。

最近では、道守さんたち、風景街道、道の駅の三者連携が話題となっていますが、地域を少しでも良くしたいという気持ちは皆同じであることが共通点として活動を拡大しつつあります。それでも、まだまだ整理しないといけない課題が多くあります。具体的な目的や内容が明確ではなく現在、みやざき会議では、この三者の代表と宮崎県内の河川国道



宮崎道楽三者会議の様子

事務所では定期的に意見交換を行い、どのような連携を行い事業に反映させていくかという内容で議論を重ねています。

このような状況下、道守みやざき会議の会員は今年度で約7,500人の会員に登録いただいています。ここまで活動が活発になったのは3人の歴代表世話人の功績が大きいと思います。歴代の代表世話人がそれぞれ献身的に道守の活動に取り組まれていただけでなく、県内はもとより九州圏域で道守の輪を広げていった功績は非常に大きいと思います。

しかしながら、20年前に立ち上げた方々が高齢化により活動を縮小されたり引退されることも増加していることも事実です。次の世代に、どうバトンタッチしているのか新たな課題となつてきています。現役で頑張っている方の中には、若い人たち以上にまだまだ頑張っている方々も多いのですが、新しい時代にあたり方や事業を展開していかねばいけないと強く感じています。これからも各県会議の皆さん、宮崎の道守さんたちからのご指導、ご鞭撻を引き続きよろしくお願いたします。

(道守みやざき会議 事務局長 石田達也)

○道守座談会
平成18年度から、道守会員の層の連携を深め、活動の輪の強化、広がりにつけて、併せて道路利用等への美化意識の向上に繋げるために道守かごしま座談会を開催しています。

座談会では、風景街道と道守活動に関するパネルディスカッション、道守と地域との連携等に関するワークショップ、幼稚園、地域の方々との花植え体験学習や会員の方々の活動報告、活動の振り返り等を行い、会員の方々同士で意見交換を行うことで「道守かごしま会議」の活動についての理解や連携を深めてきました。

最近では、さらに道守活動への理解がひろがるように、第1回JBCF鹿屋・肝付ロードレースや2023かごしま総文祭での道守として沿道整備や、花植えプランターの設置などにも取り組み、活動の幅を広げてきています。

支える 道守の応援者たち

道守活動が20年も続き、九州全域に広がってきた「継続の力」の一つに行政の皆さんの応援がある。国土交通省九州地方整備局をはじめその各事務所、地方自治体の裏方に徹した協力が道守の皆さんに力を与えた。歴代局長をはじめ、各県事務所職員の方々、定年などで「卒業」すると、一人の道守として活動していただいている。地方自治体でも市長、町長が率先してゴミ拾い、花植え活動に加わる姿が、どんなに道守さん達を元気づけたことか。最初の頃「道守さんの苦情を聞いてあげるのが我々の仕事」という受け身意識から、「自分も道守の一人」へ次第に変わり、道守側も「担当者が転勤、移動するたびに、活動内容を説明しなければならぬ」という戸惑いが消えていった。道路サポーター制度を創設した北橋前北九州市長は「道守活動に職員が参加することによって、意識変革が起こる」と話しておられた。企業の皆さんの応援も大きい。厳しい経営環境の中で「地域への奉仕」は言うにやさしく、行いは難しい。それでも道守活動の「企業市民」として積極参加、支援もいただいている。

こうした行政、企業の皆さんの応援、参加があつて今日の「道守20年」がある。「ありがとう御座いました。これからも応援よろしく」。

◆ 歴代局長

荒波は道守活動を強くした



(平成17年～平成18年) 宮田 年耕

道守九州会議20周年、誠に改めてありがとうございます。この間、道守通信でお伝えいただいていたように九州の各地域がどんどん輝きを増してきたように思います。これもひとえに、道守の皆様方が様々な活動を通じて「道」や「地域」を支え続けてくださった結果だと改めて敬意と感謝を表する次第です。

この20年間で大きな波や変革を経験しました。「道路特定財源の一般財源化」や「コンクリートから人へ」などの荒波は道守活動がより地に足の着いた活動へと向かう慣性力になったように思います。一方、2019年に中国の武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症は4年にわたり世界中で蔓延し、人々の行動が大きく制約を受けてきました。とりわけ、人々が集まること、語らうことへの制約は、人と人のつながりによって成り立つ道守の活動へ大きな影響を与えたのではないかと思います。未だ十分ではありませんが様々な制約が解除され、地域間の交流が今まで以上に活発になることが期待できるようにになりました。

歴史を振り返るとパンデミックの後には大変革がもたらされてきました。14世紀、ヨーロッパでは人口の3分の1を超える人が亡くなったパンデミックの後、人間賛歌のルネッサンスが開かれました。今回のパンデミックを契機に大きな変容が現れ、地域間の繋がりが相乗的に強まり、それと共に道守活動が更に活発化することを期待致します。

(二財) 道路新産業開発機構 理事長

九州で最初の出張先は「みちづくし」



(平成24年～平成25年) 吉崎 収

私が九州地方整備局道路部に赴任したのは平成17年10月です。大変申し訳ないことに、それまでの不勉強もあって、九州の地理や道路事情に不案内なままでの着任でした。着任4日目、九州で初めての出張先は、別府で開催された「みちづくしin大分」です。整備局のスタッフを除き、知っている九州の方といえば、以前全く別件で(二方的に?) 知己を得ていた玉川さん(副代表)くらいで、「九州中の道路界の人物が集まる」(事前レク)との情報もあり、生来の引つ込み思案の性格も手伝って、少なからず緊張して大分道を通った記憶があります。

竹瓦温泉、別府市中央公民館、ビーコンプラザでの各分科会を巡って、交流会。ある分科会では、司会の「新道路部長にどんな質問でもどうぞ!」と事前レクには無かった展開もあり、「納得いくまで許さんけんね!」といった雰囲気でしたが、何とか乗り切りました。また交流会では「被り物」を被られるなど大いに歓迎され(いじられ)ましたが、道守の皆様との距離がみる間に縮まった感があります。

あれから18年、また発足以来20年、道守活動を継続・発展させてこられた関係者の皆様には感謝と敬意の思いで一杯です。今後の活動の更なる充実と皆様のご健康を祈念申し上げます。そして私事ながら、最近ともすればサボりがちな月一の町内会道路清掃にもっとまじめに参加するようにいたします。

(株) 大林組 土木本部副本部長

◆ 歴代局長

道守の継続こそ力



(平成29年～平成30年) 増田 博行

道守九州会議の発足は、平成16年2月だそうである。20年! 早いものだ。当時、私は平成15年4月から福岡国道事務所長として、地元で(楽しい) 単身赴任生活を送っていた。

私の九州地整(地建)との縁は、平成3年以來で、福岡国道事務所の調査第一課長、局の企画課長、鹿児島国道事務所長と、多くの仕事をさせていただいた。そのため、道守立ち上げ前から、まちづくり、まじづくりに関わる多くの方々とお付き合いする機会があつたが、そういう方々も含めて、この活動を通して様々なみなさんと巡り会うことができた。

その後の福岡県の部長や九州地整局長時代にも深くお付き合いいただいたし、特に局長時代の各地での開通式等のイベントでは、会員のみなさんに大変ご活躍いただいた。さらに、退官後も講演に呼んでいただくなど、みなさんのお付き合いには感謝しかない。もちろん、今でもお付き合いいただいている方々も多し、どなたもお会いすればすぐに昔に戻れる。なかでも、樗木先生と玉川さんには、長年活動をリードしていただき、感謝の気持ちで二杯である。

それにしても、20年にわたりよくぞ活動が継続できていると驚くばかりである。主要メンバーが様々な立場でよくリードしていただいているし、九州地方整備局もよくフォローしているとは思いますが、各地の会員のみなさんの自発的な活動の継続無しには続くものではない。素晴らしいことだと思う。

今後も、継続的に新しいメンバーが加わり、役割を引継ぎながら、地道に長く続けていただけることを願っている。

(一社) 日本道路建設業協会 副会長

市民目線に助けられて



(令和3年～令和5年) 藤巻 浩之

道守九州会議の20周年になり、また、長年、道路行政にご理解・ご協力を賜り、心よりお礼を申し上げます。「使われてナンボ」の「手段」である道路への深い愛情という共通項をお持ちの皆さまは、様々なお立場から我々道路管理者との協働を通じ地域独自の取り組みを九州各地で幅広く展開いただけており、頂戴した利用者目線・市民目線のご提案やご指摘に助けていただいたことは数知れません。

令和4年10月、久しぶりに対面開催された「みちづくしin阿蘇」の光景や雰囲気は今も鮮明な記憶です。参加された400名以上の方々から御自慢ならぬ「みち自慢」を誇らしげに語られ、負けてられないと我々道路管理者もいつの間にか凄まじい相乗効果と熱気に引き込まれました。現在勤務する関東地整には残念ながら皆さまのような組織はありませんが、地域ごとには道路に深い愛情をお持ちの団体や個人がいっぱいいます。そういった方々にも助けられながら、今後とも管内の道路整備・管理を通じ、関東ひいては我が国の産業・経済・文化等の発展や国土強靱化を支援するとともに、いつか皆さまのような集まりが管内でもできないか模索していきます。

その際には、皆さまのお知恵をお借りしますので、ご協力をよろしく願います。結びに、道守九州会議の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

(国土交通省関東地方整備局 局長)

共に考え、喜びを分かち合う



(令和5年～) 森戸 義貴

道守九州会議が設立されてからの20年で交流ネットワークは大きく拡がり、今では会員数も約45000人までに増加しております。これまでの活動を継続するうえで、数々のご苦勞もあつたと思いますが、着実に活動を続けられ、20周年を迎えられたことに心より敬意を表すとともに、20周年の節目の年に局長として在籍できていることに感謝いたします。

私は昨年7月に本職に着任しましたが、九州は風光明媚な自然景観や雄大な大自然、美味しく豊かな食など、様々な魅力を持つ地域だと思っております。そのような地域が多くあるなかで、今年度の「みちづくし」は大分県竹田市で開催されました。大分県での開催は別府市、大分市に次ぐ3回目となりましたが、これまでとは異なり、竹田市は人口2万人弱の都市で、交通アクセスも決して恵まれているとは言えない地域です。しかしながら、九州各県から多くの道守の方々参加され、活発な意見交換が行われる等、大変な賑わいでした。私も参加させていただきましたが、様々な道守の活動を通じて、美しいみちづくり、まじづくりにご尽力いただいている皆様の強い想いを感じることができました。

今後も、共に美しいみちづくり、まじづくりに取り組むパートナーとして、皆様と一緒に励み、考え、喜びを分かち合うべく、整備局、事務所一体となつて取り組んで参ります。

(国土交通省九州地方整備局 局長)

◆ 国土省各国道事務所担当者

道路の不思議な力



北九州国道事務所
保全対策官
宮本 幸輝



作成したパンフ

私は今まで、福岡国道、北九州国道及び佐賀国道事務所で道守活動をされているみなさまと関わってきましたが、今回は行政側である私の活動について報告をさせていただきます。

現在、私が担当している北九州国道事務所では、恐らく九州、いや日本と言っても過言では無い支援制度がある「北九州市道路サポーター」のみなさまが活動の中心です。私が行っている業務は、活動している方々の本場にちよとしたお手伝いです。「会の案内をするチラシみたいなものが欲しいけれど、ちよと手伝つてくれんかね？」という声があると、具体的な活動状況の話を伺い、きれいな花植活動の写真を提供頂いてパンフレットを作る。そのようなことです。



道路サポーターの北里さんとの打合せ

活動をされているみなさまは、活動を通じて充実感や美しい街並みの愛着を抱いておられます。また、何よりも地元の仲間と関わって健康なパワーを生み出されています。私もみなさまの前向きな話に心躍り、素敵な笑顔に幸せな気持ちにさせて頂ける道守活動。今さらですが、道路にはそんな不思議な力があることに気がつかされました。

道守さんの熱い思いに



福岡国道事務所
専門調査官
渡邊 裕之

福岡国道管内の各エリアでは継続的に道守活動が行われております。地域を美しく、来訪者に楽しんでほしいという思いを込め、各エリアで熱心な活動が展開されているところ。そうした中、私たちは、道守さんのコミュニケーションを図りながら、活動における悩みや問題点を共有しつつ、可能な範囲で活動に参加させていただき、SNSアップ等の広報活動に力を入れております。福岡県南地域では、各自治体単位での道守ネットワークが立ち上がり、ネットワーク毎での道守活動や意見交換会などが実施されております。更なる道守の輪拡大を図ろうと、関係自治体への声掛けや、地域のキーマンとなりうる方への説明などを行っており、昨年度の道守みやまネットワーク設立など、県南地区6市でネットワークが立ち上がり、道守の拡がりを見せております。その他の支援として、道守さんの懸念材料の一つである資金調達について、助成制度などの情報提供も継続的に進めているところです。



名島橋周辺を、ふっこくボランティアと地域の皆さんできれいにしました

各道守団体さんの熱い思いに心動かされながら、支援方法を模索しているところであり、今後も可能な支援を継続してまいります。



12月の福岡国際マラソン前にコースを清掃。活動後に記念撮影

「道守のためにできることを」



長崎河川国道事務所
専門官
古賀 克久

長崎に異動してきて道守に携わることとなり、最初は道守の事がよくわからずとにかく活動に顔を出して、まずは道守長崎会議の世話人の方々や活動している皆さんと関係をつくることを心がけ、隔月開催している世話人会議や、毎年5月に開催される総会等の会議の準備や事務的な支援をしています。道守長崎会議のメンバーは世話人の方々をはじめ皆行動力があり、活発に活動されていたので、せつかくなでこれを積極的に発信しようということで、年4回程度で不定期発行していた「道守長崎通信」を毎月発行するべく掲載ネタを取材に各地の活動に積極的に参加しました。

道守長崎会議の世話人の方々には、日本風景街道「ながさきサンセットロード」にも参画されていて自然と連携して活動できていて、これは長崎の強みだと思っておりますが、更に「島原半島うみやま街道」も立ち上がり、道守団体が風景街道を支え、風景街道の団体を道守へお誘いする、このような形で連携が進み、「道守長崎通信」も「道守長崎・風景街道通信」と名称を変え、風景街道の活動も発信していくことになりました。

やがて自分が「道の駅」の業務も兼任することとなり、大分発で盛り上がりつつあった「3つの輪」の連携を進めるため、駅長会議で連携の話を持ち出し、「道の駅」としてのメリットを見いだすことに難がありました。が、何でもお手伝いします作戦（草刈り、花植え、イベント準備等を一緒に実施）である程度の信用を得て、道守、風景街道との連携を進めています。

令和5年1月号（No.133）より「道守長崎・風景街道通信」改め「長崎3つの輪」通信となり、「道守」、「風景街道」、「道の駅」、それぞれの情報を掲載して「道の駅」に設置してもらっていますので、長崎県内の「道の駅」にお寄りの際には手にとってご覧下さい。



松浦海のふるさと館 花植え活動

◆ 地方自治体

北九州市

北九州市道路サポーターは市の誇り



北九州市役所 建設局
道路部 道路計画課
竹島 久美 課長

1 概要

「北九州市道路サポーター」の制度は、平成17年10月にスタートしました。

公害克服を経験した北九州市が、「世界の環境首都」を目指す中で、市民と協働で美しいまちづくりを推進しようとしたことが制度創設のきっかけです。

スタート時は12団体でしたが、広く認知され、令和5年12月現在の登録数は256団体になり、美しいまちづくりの輪が広がっています。

道路サポーターの登録団体には、清掃用具や花苗の支給、花植活動を行う団体に対する散水栓の設置などの支援を行っています。



道路サポーターによる清掃、花壇の手入れ

2 制度の特徴

この制度の大きな特徴は、平成25年度に「道路サポーターの会」を立ち上げたことです。

会員の皆様が気軽に意見交換ができるよう、行政区ごとに集まる「区会」と、区会の代表と行政で構成する「幹事会」を設けて、年に1回「総会」を開催し、会員同士の情報交換のほか、制度の見直しについて活発な意見交換や提案を行うことができるようになりました。

これまでに、支援用具の追加、水道料金の補助拡大など、制度を拡充してきました。

また、登録から10年を迎えた団体を対象に、市長からの表彰状をお渡ししています。そのほか、北九州市都市緑化功労者表彰や、みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰などに積極的に推薦を行っており、このような取り組みも長期継続のモチベーションになっています。

さらに、道路サポーターの会からの提案を受け、令和5年10月1日から登録要件の一つである1団体当たりの人数を10人から5人に緩和しました。これにより、美しいまちづくりの輪が一層広がっていくと期待しています。

3 大規模イベントでの活躍

北九州市では、令和3年に「世界体操・新体操北九州大会」、令和5年に「平成中村座小倉城公演」などの大規模イベントが



総会での市長表彰(登録から10年を迎えた団体)



「道路サポーターの会」区会の様子

4 道守としての関わり

開催されました。市内外からのお客様をお迎えするため、会場周辺においてサポーターの皆様が花植え活動を行いました。会場周辺が花で彩られたのはもちろんですが、サポーターの皆様表情も輝いておられました。

道を舞台に清掃や花植えなど様々な活動を行っている「道守」まさしく、道路サポーターの皆様は、北九州市が誇る「道守」です。今後も、道路サポーターの皆様に対して、精一杯支援を続けるとともに、皆様の「まちに愛着を持ち、まちを美しくする」気持ちを広くPRしていきたいと考えています。

集合写真第16回北九州市道路サポーターの会総会



「世界体操新体操の練習会場に花を植えて選手を応援！」



平成中村座小倉城公演に向けた花植え活動



「宮崎県」

道守活動と連携した
「美しい宮崎づくり」



宮崎県県土整備部
都市計画課美しい
宮崎づくり推進室
弓削 俊浩 主幹

宮崎県には、日南海岸などを本県を代表する観光地に育て上げた若切章太郎氏の意志を受け継ぎ、良好な沿道景観の保全・創出等を目的として昭和44年に全国に先駆けて制定された「宮崎県沿道修景美化条例」と、同条例の精神を生かし、その取組を県内全域に広げるため平成29年に施行された「美しい宮崎づくり推進条例」があり、本県景観行政の道

域における担い手不足などの社会情勢の変化や課題に対応し、先人たちが育んできた美しい景観を将来に引き継ぐためには、これらの条例の理念の下、景観形成の活動を若い世代につなげていくことが重要です。

そこで、「美しい宮崎づくり推進強化月間」である11月のイベントでは、道守みやざき会議代表世話人の根岸裕孝氏と、SNS運用代行などの事業を手がける若手起業家の福島大地氏により、道守の活動や若い世代が参加するための情報発信等に関するパネルディスカッションを行っていただいたところです。

宮崎には、約20年にわたる道守の活動により大切に守られてきた「道」と、それに携わる会員の皆さまの姿があり、これらも「美しい宮崎」の一つだと思います。宮崎県も、このよう貴重な取組を将来に継承できるよう、引き続き連携して事業を進めていきたいと考えております。



「美しい宮崎づくりのつどい」でのパネルディスカッション



置県140周年記念第7回「美しい宮崎づくりのつどい」

「柳川市」

二人三脚でさらに
道守活動を活発に



柳川市役所建設部
都市計画課
目野 隆広 課長

道守柳川ネットワーク（以下「道守柳川」と行政の連携については、両者がうまく機能している例として取り上げていただくことがあります）が、団体設立から約20年という時間の中では、運営していくなかで問題も生じることがあります。こうしたときは、その対策などについて、道守柳川の山田代表をはじめ世話人の皆さん、事務局（市都市計画課）で協議・調整しながら、試行錯誤し対応してきています。その結果が、現在のような良好な関係と連携に繋がっているのではないかと考えています。

今後、良好な関係と連携を維持していくうえでは、行政側の問題も見えてきています。



平成16年 道守柳川ネットワーク設立当初の全体会議



令和5年 第45回道守柳川ネットワークの全体会議



令和5年2月 屋外研修会
「事業所や家庭でできる やさしい樹木の剪定・管理」

一つは、本市に限ったことではありませんが、組織改編や人事異動で、道守に対する考え方や関わり方に影響がでること、もう一つは通常業務を行いながら道守柳川の運営に関わるため、業務量や組織の体制が変わっていく中で、いかに過剰な負担とならないよう対応していくかという事です。

こうした行政内部の問題は勿論のこと、その時々状況に柔軟に対応できるように、引き続き道守柳川の山田代表や世話人の皆さんと事務局の二人三脚で、会員の皆さんの活発な活動をサポートできるように連携していきたいと思っております。

◆ 企業市民

笑顔あふれる道守活動へ



九州地域づくり協会
赤星 文生氏

を越す諸団体とお付き合いを継続する他、1年に二度各県の道守が集まる「みちづくし交流会」を、開催地とともに盛り上げるために様々なカタチで支援をさせていただいています。これらを含めた支援内容は大きく、道路清掃美化（65%）、イベント開催（16%）、企画部門（19%）に分けられます。支援する皆様方からは、活動資金面や組織の充実及び地域貢献度の向上に役立つという有難い声が届く一方、2年前から始めた活動交流発表会では、高齢化に伴う後継者の育成や活動内容の多様化に伴う資金面で苦慮されている様子が伺えました。こうした内容を真摯に受け止め、従前より支援の枠組みの改善に取り組んできましたが、今後も、道守活動に携わる方々が笑顔で活動を継続できるように、微力ながら支援に努めて参ります。この度は、発足20周年誠にありがとうございます。

「継続は力なり」



建設サービス
堀 敏信氏

道守九州会議の発足20年おめでとうございます。もう20年になるのかと、大変感慨深いところがあります。道守の皆様が、暑さ寒さにかかわらず、早朝から暗くなるまで「一生懸命、楽しく、朗らかに取り組まれている姿を、時には「道守通信」で拝見させていただき、本当に頭が下がる思いです。「継続は力なり」まさに皆様の活動そのものだと思います。

当社は道路の経常維持工事の会社です。ある意味で道を守る「道守活動」そのものを生業とする会社です。九州道守会議の設立趣旨に賛同し、関係する皆様方の支援となるよう賛助会員として微力ながら活動が続けて参りました。これからも皆様の道守活動を、縁の下の力持ちを指して支援を続けさせて頂きたいと思っております。

継続の秘訣「できる人が、できるときに、できることから」なんと素晴らしい言葉でしょう！



広川町での建設サービスのボランティア

道守活動とエコポイント



前田建設工業
徳田 浩一郎氏

道守活動に賛同し寄付をさせていただいております。その寄付に「Meppon」という社内エコポイント制度を利用しております。それは、社員やその家族がプライベートで自主的に楽しみながら取り組める身近な環境活動、例えば海岸清掃や森林整備活動、節電や4R活動等を通して貯めたポイントを、ギフト券や商品に還元できる制度です。この制度は大変珍しいと事務局の方からもお褒めにあずかりました。社員も地球も社会もHappyになれる「Meppon」と共に、道守九州会議に寄せる当時から変わらぬ期待や思いで今後も支援をさせていただきます。最後にこれからも道守活動が未永く続きますことを祈念いたします。

道守九州会議が20周年の節目を迎えられましたこと誠にありがとうございます。弊社は九州各地で道路建設工事に携わらせていただいております。関係上、些少ではありますが、

楽しみながら道守活動を続けていきたい



唐津土建工業
前田 耕介氏

弊社は、佐賀県北部の唐津市に本社を置く総合建設業です。ビルや商業施設、住宅などの建設から道路や橋梁、港湾施設などの土木工事をおこなっております。「建設業を通じて、地域社会に奉仕し経営を確立する」の経営方針のもと、定期的に社屋の周辺、現場事務所周辺の道路清掃、虹ノ松原清掃、海岸清掃などを行なっています。

今年度は新たな試みとして、ボランティア活動だけでなく社内のコミュニケーションも高めていきたいという思いで、虹ノ松原清掃を行った後にパークキーをして懇親を深めました。今後も息の長い活動ができるように工夫して道守活動も続けていきたいと考えています。

道守活動、事務局機能をしっかり



九州建設コンサルタント
春田 義信氏

道守会議と私のお付き合いは今年で20年目となる。最初は自分の副長、次が道路部の道路管理課長としてお付き合いさせていただき、国交省退職後は道守大分会議の事務局の一員として関与させていただいている。

道守活動が長く活発に続く秘訣は、事務局機能がしっかりしていることだと思ふ。大分では木ノ下事務局長と会計の江口さん、下つ端の春田の3人で事務局を運営し、道守大分の①運営の方針、②資金、③情報共有を主な内容として必要時に集まったり、グループLINE上で意見を確立している。また、資金的支援も重要なので、賛助会員や協賛金など所属会社も含めOB所属企業等にも多数応援いただいている。活動も恒例行事のマイツリー、別大マラソン前日清掃、車いすマラソン前日清掃、やまなみハイウェイ一斉清掃等にもOB会（豊友会）として参加させていただいている。



励ましあった/
思い出の

みちづくし

ポスターで
巡る

みちづくし in 福岡 2007

第4回

テーマ 未来へとつなぐひと、みち、まち
日時 2007年12月8日(土)～9日(日)
会場 福岡国際会議場
参加者 483名

meet you
Nice to 道遊
in 福岡

未来につなぐひと・みち・まち

みちづくし
ふくおか

道守九州会議 交流会 2007
12/8・9

8日(土) 福岡国際会議場 5階
12:00～13:00
13:00～14:25
14:25～15:40
15:40～17:10
17:10～17:30

9日(日) 日本風景街道・国際シンポジウム
福岡国際会議場 5階
10:00～16:30

参加者募集中!
詳しくは裏面をご覧ください

2004年10月15日(金)16日(土)

みちづくし
KUMAMOTO

道守九州会議 交流会
2004

参加者募集中!
詳しくは裏面をご覧ください

15日(金) KKRホテル熊本
熊本ホテル熊本
熊本ホテル熊本
熊本ホテル熊本
熊本ホテル熊本

16日(土) 熊本城

道守九州会議 交流会
2004

参加者募集中!
詳しくは裏面をご覧ください

みちづくし in 熊本 2004

第1回

テーマ 熊本城を見ながら道をかたりませんか
日時 2004年10月15日(金)～16日(土)
会場 KKRホテル熊本
参加者 350名

「世代、時代をつなぐ道。」

みちづくし
鹿児島 2008
道守九州会議 交流会

11/28・29

28日(金) 会場 新ウェルビュー かがしま
受付 12:00～13:00
13:00～14:30
14:30～15:00
15:00～17:30
17:30～18:15

29日(土) 現地体験学習会
○ 指宿・知覧コース
○ 鹿児島市内・桜島コース
ガイドの案内で様々な鹿児島を体験します。
参加者募集中!
詳しくは裏面をご覧ください

みちづくし
NAGASAKI

道守九州会議 交流会 2006

10/27・28

道を歩く、まちを知る

27日(金) 会場 長崎ブリックホール(長崎市流川町)
受付 12:30～13:00
13:00～14:30
14:30～16:30
16:30～17:20

28日(土) 現地体験学習会:長崎さくら博'06
会場 長崎ブリックホール(長崎市流川町)
受付 12:30～13:00
13:00～14:30
14:30～16:30
16:30～17:20

参加者募集中!
詳しくは裏面をご覧ください

みちづくし in 大分 2005

第2回

テーマ 話す道。おおいた。
日時 2005年10月6日(木)～7日(金)
会場 ビーコンプラザ
参加者 600名

みちづくし
大分

道守九州会議 交流会 2005

10/6・7

話す道。おおいた。

6日(木) 会場 別府市 日田市 杵築市 臼杵市
受付 12:00～12:50
13:00～14:30
14:30～15:00
15:00～17:30
17:30～18:15

7日(金) 現地体験学習会:大分県内5コース
会場 別府市 日田市 杵築市 臼杵市
受付 12:00～12:50
13:00～14:30
14:30～15:00
15:00～17:30
17:30～18:15

参加者募集中!
詳しくは裏面をご覧ください

みちづくし in 鹿児島 2008

第5回

テーマ 世代、時代をつなぐ道
日時 2008年11月28日(金)～29日(土)
会場 ウェルビュー かがしま
参加者 326名

みちづくし in 宮崎 2009

第6回

テーマ あなたと私でつなぐ道
新たな公ってなんね?
日時 2009年10月23日(金)～24日(土)
会場 青島神社 儀式殿
参加者 350名

道守
みちもり

あなたと私でつなぐ道
新たな公ってなんね?

10/23(金) 10/24(土)

宮崎市 青島地区にて開催

10/23(金) 会場 青島神社 儀式殿
受付 12:30～13:30
13:30～14:00
14:00～14:50
14:50～16:50
16:50～17:30

10/24(土) 現地体験学習会
会場 青島コース 日南コース
受付 12:30～13:30
13:30～14:00
14:00～14:50
14:50～16:50
16:50～17:30

みちづくし
みやざき 2009
道守九州会議 交流会

みちづくし in 長崎 2013

第10回

テーマ 人と道との新たな絆
日時 2013年11月1日(金)～2日(土)
会場 長崎港松が枝国際ターミナル
参加者 305名



みちづくし in 大分 2014

第11回

テーマ 道守・新たな地平をめざして
日時 2014年11月21日(金)～22日(土)
会場 ホルトホール大分
参加者 235名

みちづくし in 福岡 2015

第12回

テーマ 新しい「公」―道守活動
～輪を広げつながろう!!～
日時 2015年11月13日(金)～14日(土)
会場 柳川総合保健福祉センター「水の郷」
参加者 420名



みちづくし in 九州 2010

第7回

テーマ つながる道守、広がる道守
日時 2010年11月5日(金)～6日(土)
会場 福岡市役所
参加者 311名



みちづくし in 佐賀 2011

第8回

テーマ 未来をひらく つながりの道
日時 2011年11月2日(水)～3日(木)
会場 アバンセ
参加者 316名

みちづくし in 熊本 2012

第9回

テーマ 今こそ考えよう 現代の道守とは
日時 2012年10月26日(金)～27日(土)
会場 KKRホテル熊本
参加者 261名

みちづくし in 阿蘇 2022

第18回

- テーマ 阿蘇からのチャレンジ 復興九州
～パワフルな風を届けよう～
- 日時 2022年10月28日(金)～29日(土)
- 会場 阿蘇プラザホテル
- 参加者 419名



みちづくし in 竹田 2023

第19回

- テーマ 花咲くたけた～3つの輪～
これまでこれから
- 日時 2023年10月27日(金)～28日(土)
- 会場 グランツ竹田
- 参加者 465名



みちづくし in 佐世保 2019

第16回

- テーマ 道守Restart!!
～平成から令和へ～
- 日時 2019年10月25日(金)～26日(土)
- 会場 アルカスSASEBO
- 参加者 412名



みちづくし in 北九州 2021

第17回

- テーマ ーみんなで手をつなごうー
連携の道守活動へ
- 日時 2021年11月30日(火)～12月1日(水)
- 会場 AIM
- 参加者 424名



みちづくし in 鹿児島 2016

第13回

- テーマ 躍道
～地方の輝き創り、道守ネットワーク～
- 日時 2016年11月25日(金)～26日(土)
- 会場 薩摩川内市国際交流センター
- 参加者 359名



みちづくし in 宮崎 2017

第14回

- テーマ 道育(ドウイク!?)
～道守の明日に向かって～
- 日時 2017年10月5日(木)～6日(金)
- 会場 宮崎市民プラザ
- 参加者 378名

みちづくし in 佐賀 2018

第15回

- テーマ わくわくドキドキ輝く道守
- 日時 2018年11月5日(金)
- 会場 グランデはがくれ
- 参加者 417名



道守を支援いただいている賛助会員の皆様(団体・企業)

※順不同

一般社団法人 九州地域づくり協会	九州国道協会	(一社)プレストレストコンクリート建設業協会 九州支部
一般社団法人 日本道路建設業協会 九州支部	一般社団法人 大分県建設業協会	一般社団法人 佐賀県建設業協会
一般社団法人 鹿児島県建設業協会	一般社団法人 熊本県建設業協会	一般社団法人 長崎県建設業協会
一般社団法人 福岡県建設業協会	一般社団法人 宮崎県建設業協会	大分県道路利用者会議
株式会社大林組 九州支店	鹿児島県道路利用者協議会	鹿島建設株式会社 九州支店
九州電力株式会社	熊本県道路利用者協会	建設サービス株式会社
佐賀県道路愛護協会	清水建設株式会社 九州支店	大成建設株式会社 九州支店
長崎県道路協会	長幸建設株式会社	西日本高速道路株式会社 九州支店
日新興業株式会社	福岡北九州高速道路公社	福岡県道路協会
福岡市道路利用者会議	宮崎県道路利用者協議会	株式会社九州建設マネジメントセンター
九州技術支援協議会	株式会社熊谷組 九州支店	西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
西日本高速道路メンテナンス九州株式会社	阪神高速技術株式会社	小田開発工業株式会社
サンコーコンサルタント株式会社 九州支店	日本振興株式会社 九州支店	アイレック技建株式会社 九州支店
旭建設株式会社	朝日テクノ株式会社	株式会社新井組 九州支店
株式会社安部日鋼工業 九州支店	株式会社安藤・間 九州支店	株式会社アジア技術コンサルタンツ
株式会社アップス	朝日工業テクノス株式会社	朝日開発コンサルタンツ株式会社
いであ株式会社 九州支店	鳥城塗装工業株式会社(九州支店)	Fe石灰技術研究所
NTTインフラネット株式会社 九州事業部	株式会社エスケイエンジニアリング	株式会社エンジニアプランニング
株式会社エイト日本技術開発 九州支店	株式会社エスイー 九州支店	扇精光コンサルタンツ株式会社
大分瓦斯株式会社	大分県建設業協会 大分支部	大分県道路舗装協会
大分交通株式会社	株式会社大島造船所 九州営業所	株式会社荻島組
株式会社オリエンタルコンサルタンツ 九州支店	株式会社岡崎組 勝盛会	鹿児島土木設計株式会社
株式会社柏木興産	株式会社片平新日本技研 福岡支店	株式会社カンドー
上内電気株式会社	川田建設株式会社 九州支店	株式会社ガイアート 九州支店
一般財団法人 橋梁調査会	九建設計株式会社	九州建設コンサルタント株式会社
九州地区道路利用者会議	九州みちの会	協同エンジニアリング株式会社
株式会社橋梁コンサルタンツ 西日本支店	株式会社九州開発エンジニアリング	九州環境管理株式会社
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 九州支部	株式会社建設環境研究所 九州支店	株式会社建設技術研究所 九州支店
株式会社建設技術センター	株式会社建設技術コンサルタンツ	株式会社鴻池組 九州支店
株式会社国土開発コンサルタント	株式会社コバルト技建	コアアツ工業株式会社
株式会社駒井ハルテック 九州営業所	一般社団法人 佐賀県土木づくりコンサルタンツ協会	西部ガス株式会社
株式会社サタコンサルタンツ	株式会社西海建設	株式会社島田設計コンサルタント
株式会社親和コンサルタント	新成建設株式会社	株式会社新日本技術コンサルタント
昭和コンクリート工業株式会社 九州支店	JR九州コンサルタンツ株式会社	株式会社ジャストエンジニアリング
株式会社西部技建コンサルタント	株式会社センコー企画	株式会社そよかぜ館(道の駅大和)
有限会社測量企画センター	株式会社総合技術コンサルタント 九州支店	龍上工業株式会社
多久市そじの会(多久の未来を創る会)	宅島建設株式会社	谷川建設工業株式会社
株式会社高山組	株式会社玉の湯	太陽技術コンサルタント株式会社
第一生命保険株式会社 佐賀支店	大日本コンサルタント株式会社 九州支店	大福コンサルタント株式会社
株式会社地域科学研究所	株式会社長大テック 福岡支店	中央コンサルタンツ株式会社 福岡支店
中央復建コンサルタンツ株式会社	株式会社社長大 福岡支店	通信土木コンサルタンツ株式会社 九州支店
株式会社 テクノコンサルタント	株式会社友岡組	株式会社東豊開発コンサルタント
株式会社友岡建設	東急建設株式会社 九州支店	東洋技術株式会社
戸田建設株式会社 九州支店	利光建設工業株式会社	株式会社東亜コンサルタント
株式会社東京建設コンサルタント 九州支店	株式会社 中村緑地建設	南生建設株式会社
株式会社名村造船所 福岡営業所	株式会社西九州道路	株式会社西田技術開発コンサルタント
株式会社日建コンサルタント	西日本建技株式会社	西日本コンサルタント株式会社
西日本コントラクト株式会社	日本乾溜工業株式会社	日本工営株式会社 福岡支店
日本地研株式会社	西日本技術開発株式会社	日鉄鉱山コンサルタント株式会社 福岡支店
日本軌道工業株式会社	株式会社野村建設	葉隠会道守部会
株式会社萩原技研	パシフィックコンサルタンツ株式会社 九州支店	株式会社東九州コンサルタント
株式会社日高本店	株式会社ピーエス三菱	福地建設株式会社
復建調査設計株式会社 九州支店	株式会社福山コンサルタント	株式会社富士設計
株式会社富士ピーエス	株式会社ぶぜん街づくり会社(「道の駅」豊前おこしかけ)	株式会社丸福建設
前田建設工業株式会社 九州支店	松尾建設株式会社	松本技術コンサルタント株式会社
株式会社末宗組	株式会社三原建築設計事務所	みちを考える会
宮崎空港ビル株式会社	宮地エンジニアリング株式会社 福岡営業所	有限会社道の駅みえ
株式会社宮崎産業開発	株式会社水野建設コンサルタント	村本建設株式会社 九州支店
八千代エンジニアリング株式会社 九州支店	株式会社ヤマウ	株式会社ヤマックス
株式会社横河ブリッジ 福岡営業所	龍南建設株式会社	

個人会員66名

道守へのエール

熱い思いと高い志



九州地方整備局
道路部長
三保木 悦幸

道守九州会議設立が宣言され、歩みを始めてから二十年を迎えました。これも道守九州会議設立当初よりお支え頂いている会員皆様方の熱心かつ献身的な取り組みの賜であり、この道に対する皆様方の熱い思いや高い志、同じ想いを持った方々のネットワークの広さや固い絆に、改めて敬意と感謝を申し上げます。道路は、我々の生活と切っても切り離せない最も身近なインフラであると同時に、多面的機能を有しています。

道路の基本は、「空間」と「ネットワーク」と言われますが、特に九州では未だネットワークが繋がっていない区間も残っており、経済の道・物流の道・命の道・観光の道として、さらには今や各種安全保障にも資するネットワークの整備を、これまで以上にスピード感を持って進めて行くことが喫緊の課題です。

もう一つの「空間」については、これまでのような自動車交通を中心とした空間から、人や自転車が主役となるにぎわいの空間へ、また景観やカーボンニュートラル、さらには生物多様性にも貢献するグリーン空間へ、さらには電力や治水といった新たな価値を持つ空間へと、地域のニーズに応じた「新たな多機能空間への進化」にも取り組んでいく必要があります。

道守の皆様方とは、今後とも地域づくりの良きパートナーとしてはもちろんのこと、こうした新たな時代の道路整備や管理についても、連携を強化しながら取り組んで参りたいと考えておりますので、引き続きのご支援・ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

道守活動20年!

たくさんの温かいメッセージ、ありがとうございました
いろいろと沢山のことにチャレンジしました
これからも「繋がり、拡げて」10年、20年と続けていきます
応援をお願いします!

道守九州会議

一般会員	団体・個人	619団体
賛助会員	個人	66名
	団体	179団体
会員総数		44821名 (R5年10月時点)

道守通信 編集後記

◎20周年を迎えた道守会議、特集号を作りながら、様々な人たちに支えられてここまで来たのだと痛感させられました。よちよち歩きから手をつなぎ、周りの人を巻き込み、「みちづくしで」思いを共有し、自立し、20歳まで成長しました。まさに成人式を迎えた道守会議です。さらなる成長と20年継続してきたという自負と熱い思いを次世代に、そして九州のみならず、他の地域に伝えていくことが、これからの使命になることでしょうか。

◎座談会では、「これからのチャレンジ」連携を拡げ「繋ぐ」をテーマに各県会議の代表の皆様がこれからの10年、20年を語っていただきました。「3つの輪」など、他の団体と連携しながら道守活動を充実させ、連携した団体へも協力し、影響を及ぼしながら、ひたすら地域のために活動を推進されています。今後はますます繋がり、絆を深めた活動が各地で展開されることを願ひ、各県会議の活動指針の参考にさせていただければ幸いです。

◎道守活動を支えてきた人々には、鬼籍に入られた方々を紹介し、各県会議から代表して報告いただきました。

20年間お世話になった行政、企業の皆様に応援メッセージをいただきました。20年継続できたことは、ひとえに行政や企業の応援の賜物です。

◎思い出のみちづくしは、第1回から19回までの実施結果と今年実施する鹿屋のみちづくしを掲載しています。毎回開催地の個性が出たポストカード内容になっています。感動したことや苦労したこと、頑張ったこと、楽しくてウキウキしたことなど当時の思い出を振り返っていただければ幸いです。毎回300名以上の方が参加されていることに驚きです。道守さんたちの同窓会になっています。

◎最後に事務局を担っていた方々に登場していただきます。前田奈美江さん(発足時から7年間担当)。活動的で楽しく皆さんのサポートをされました。手嶋祐子さん(平成24年から5年間担当)。新米の尾木事務局長との凸凹コンビは語り草です。道守さん達からも愛されキャラでした。現在は九州建設技術管理協会の社員として新技術発掘の仕事にまい進中です。

岩崎香織さん(平成30年から4年間)コロナ禍での活動がメインでしたが、北九州市で開催したWEBと現地とのハイブリット開催に尽力いただきました。現在は、九州地域づくり協会が公益事業支援窓口を担当し、道守さん達とも関わっていただいています。三善愛弓さん(令和5年から現在。道路部長の秘書から転身し、九州会議とふくおか会議の事務局を担当していただいています。おとなしい中にも芯があり、丁寧な対応力は完璧です。これからもよろしくお願ひします。

表紙の短歌について
この道を
せんねんまえに歩いてた
ひとが見たかも
知れない夕日

作者 東京在住 森川有さん

「道守九州会議」発足記念に短歌を募集し、九州を中心に全国から92首の応募があり、最優秀歌に選ばれた短歌です。
選評は、「わかりやすい表現のなかに実感が出ていて、多くの人の共感を得られるでしょう」とのことです。



第11回みちづくLin大分 (H26.11.21)



第12回みちづくLin福岡 (H27.11.13)



第13回みちづくLin鹿児島 (H28.11.25)



第14回みちづくLin宮崎 (H29.10.5)



第15回みちづくLin佐賀 (H30.11.5)



第16回みちづくLin佐世保 (R1.10.25)



第17回みちづくLin北九州 (R3.11.30)



第18回みちづくLin阿蘇 (R4.10.28)



第19回みちづくLin竹田 (R5.10.27)

発行「道守九州会議」

広報誌「道守通信」
20周年記念号
令和6年3月発行

「道守九州会議」事務局

■道守支援室 (九州地方整備局道路管理課内)
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

■(一社)九州建設技術管理協会内
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/> e-mail michi-kima@kyugikyo.or.jp